

# サハリンの民族植物学：現代の視点から見た 『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』 1 シュミットが報告した先住民族の植物名称

水島未記・白石英才・丹菊逸治・山田祥子・Martijn Knapen

Key Words

歴史言語学 (Historical linguistics)、ニヴフ (Nivkh)、ウイлта (Uilta)、アイヌ (Ainu)、大シベリア遠征 (The Great Siberian Expedition)

## 1 はじめに

筆者のうち水島は、これまで北東アジア先住民の民族植物学を研究対象とし、主に植物学的な視点から分析を行ってきた。特にサハリン北部およびアムール川河口域の先住民に関しては、言語学の専門家である白石、丹菊らと協働しながら、植物資源利用文化およびそれに関わる各民族の植物名称や関連語彙などについても記録してきた (水島ほか 2007 など)。さらには、植物資源利用文化と植生・植物相等の自然環境との関係に焦点を当てた研究を進めてきた (水島ほか 2017)。

『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』 (アムール地方およびサハリン島の旅) (Schmidt 1868、以下『Reisen』) はアムール川流域およびサハリン島の植物相についてのパイオニア的研究である。同書は、地質学者・植物学者フリードリヒ・シュミットを隊長としてロシア帝立地理学協会が派遣した大シベリア遠征の成果物である。同書の科学的成果は植物学の分野ではよく知られており、そこで記された植物学上の知見は、今日においてもこの地域の植物相を研究する上での重要な基盤となっている。

そうした植物学上の知見に比して、『Reisen』が残した民族植物学上の記録、すなわちその地域に住む人々が有する植物知識の記録については、これまでまったく注目されてこなかった。同書にはサハリン先住民族すなわちアイヌ、ニヴフ、ウイлтаによる植物利用およびそれぞれの言語による植物名称が記録されている。『Reisen』のそうした民族植物学上の記録に焦点をあて、19世紀半ばのサハリン先住民の植物に関する認識や、それを手がかりとして各民族の関係について分析することは、各民族の植物資源利用文化と自然環境との関係を考察する上で大いに有益である。また、植物名称自

体についても当時の名称と現在の名称との比較あるいは各言語間における名称の借用関係を分析することで、古い時代の記録が少ないサハリン先住民族言語の研究に新たな知見を得ることが期待できる。そこで筆者らは、この著作のこの部分に光を当て、それぞれの専門分野を活かした多角的な視点から民族植物学的な分析を加えるという研究を計画した。最終的には、サハリンのみならず大陸の諸言語における植物名称と植物分布の関係に関する研究と連動させ、それぞれの民族の故地の研究についても考察を行うことを目指している。

本稿では、本研究による成果の第1編として、まず本研究で素材とするシュミットらによる、大シベリア遠征の歴史的背景および概要を、次いで『Reisen』についての書誌的な紹介を記述する。そして最後に、シュミットらが各言語による名称を記録した植物についての現代の学名および分類体系による整理の結果を報告する。

## 2 大シベリア遠征について

### (1) 歴史的背景

19世紀半ばのロシアではアジア極東への関心が社会的にも政治的にも高まっていた。ロシア国内ではニコライI世 (在位1825~1855) の圧制および欧州外交への絶え間ない干渉への批判から、改革派ナショナリストの間で「西欧との断絶」 (Тютчев 1913, Bassin 1983: 241より)、そして「東方への転換」への機運が高まっていた (Bassin 1983)。それはアジアにおけるロシアの役割を、文明と啓蒙をもたらす救世的存在と見なす当時の汎スラヴ主義と結びついていた (Bassin 1983)。1845年のロシア地理学協会の設立はそうした機運に学界が呼応したものであり、そこでは学問が人類全体に対してではなくロシアとスラヴ民族のために奉仕

水島未記：北海道博物館 研究部 自然研究グループ

白石英才：札幌学院大学 経済経営学部

丹菊逸治：北海道大学 アイヌ・先住民研究センター

山田祥子：室蘭工業大学 ひと文化系領域

Martijn Knapen：マックス・プランク地球人類学研究所 「言語と人新世」研究グループ

する姿勢が強調されていた (Bassin 1983)。

対外的には、当時の東アジアの政治情勢はロシアが深く憂慮するものであった。二度のアヘン戦争による欧州列強諸国の中国 (清朝) への侵食およびアメリカ合衆国の太平洋への進出はいずれもロシアのシベリアにおける利権への脅威と見なされていた。北米と中国に商業上の利権を確立したいロシアにとり、アムール川流域とサハリン島の植民地化は欧米諸国のアジア進出への有力な対抗措置であり (Stephan 1971, Bassin 1983, Forsyth 1992)、またシベリアの毛皮産地への補給路を確保する上でも重要視されていた (Bassin 1983)。

ロシア帝立地理学協会が北東アジアに調査団を派遣することを決定した背景にはこうしたロシアの社会的、政治的背景が存在した<sup>(1)</sup>。この「大シベリア遠征」は19世紀になされたシベリア調査のなかでもっとも大掛かりなものであり、その調査範囲はバイカル湖より東のアムール川流域およびサハリン島を含むものであった (Bassin 1983)。調査により、ロシアが高い戦略的関心を示すこの地域の地理および動植物等の自然科学についての情報がもたらされることが期待されていた。

## (2) 遠征の概要

調査は2部門から構成されていた。1855年から1858年にかけて実施された数理部門では天文学および測量上の情報を、1860年から1862年にかけて実施された自然科学部門では動植物および地質学上の情報を収集することが目的とされた。後者を率いたのが、バルト・ドイツ人の地質学者・植物学者のフリードリヒ・シュミット (1832~1908、ロシア名フョードル・ボグダノヴィッチ・シュミット) であった<sup>(2)</sup>。Primorye Branch of the

Russian Geographical Society (ロシア地理学協会沿海州支部) (2020) によると、シュミットの調査行程は以下のとおりである。シュミットはサンクトペテルブルグを1859年5月に発ち、アムール川上流域にあるブラゴヴェシエンスクで越冬した (日付はユリウス暦、以下同様)。1860年5月、間宮海峡を渡ってサハリン西海岸のドゥイに上陸し植物相の調査を開始した<sup>(3)</sup>。同年6月、民族学者A. D. ブリルキンと測量技師G. V. シェブーニンがドゥイに到着し、シュミットと合流して西海岸を南下、クシュンナイまでを調査した<sup>(4)</sup>。1861年2月、シュミットとシェブーニンは東海岸のポロナイ川河口を経由してドゥイに戻った。ドゥイでは、ドゥイ以北の地質と植物を調査していたP. フォン・グレンがシュミットらを迎えた。同年2月、シュミットとグレンはニコラエフスクに戻った。その冬、グレンはニコラエフスクからサハリン島北部の調査に派遣された。6月、シュミットはドゥイに渡りグレン、ブリルキン、シェブーニンと合流した。そこで調査を二手に分けることが決定された。グレンとブリルキンはサハリン島南部を、シュミットとシェブーニンはアムール川流域を担当することとされた。10月、調査を終えたシュミットとシェブーニンはニコラエフスクに戻った。1862年1月、シュミットはサハリン島への最後の調査を行った。3月、調査隊のメンバー4名がニコラエフスクに戻り、アムール川支流のアムグン川流域を調査した後、1863年1月にサンクトペテルブルグに帰還した。シュミットおよびグレンによる調査の日程概要を表1に、関連するサハリン周辺の地名を図1に示す。

大シベリア遠征の成果は『Reisen』以外にもSchmidt and von Glehn (1868)、Schmidt, Glehn and Brylkin

表1 シュミットらによる調査の日程概要

西暦	月	シュミット	グレン
1859	5月	サンクトペテルブルグ発	
1860	3月		サンクトペテルブルグ発
	5月	サハリン着	
	6月	サハリン調査	サハリン着
			サハリン北部調査
1861	2月	ドゥイ着	シュミットと合流
	2月	ニコラエフスク着	
	冬期	アムール川流域調査	サハリン北部調査
	6月	ドゥイ着	サハリン南部調査
	7月	沿海州調査	サハリン南部調査
	10月	ニコラエフスク着	
1862	1月	サハリン調査	
	3月	グレンと合流	ニコラエフスク着
	9月	ニコラエフスク発	
1863	1月	サンクトペテルブルグ着	

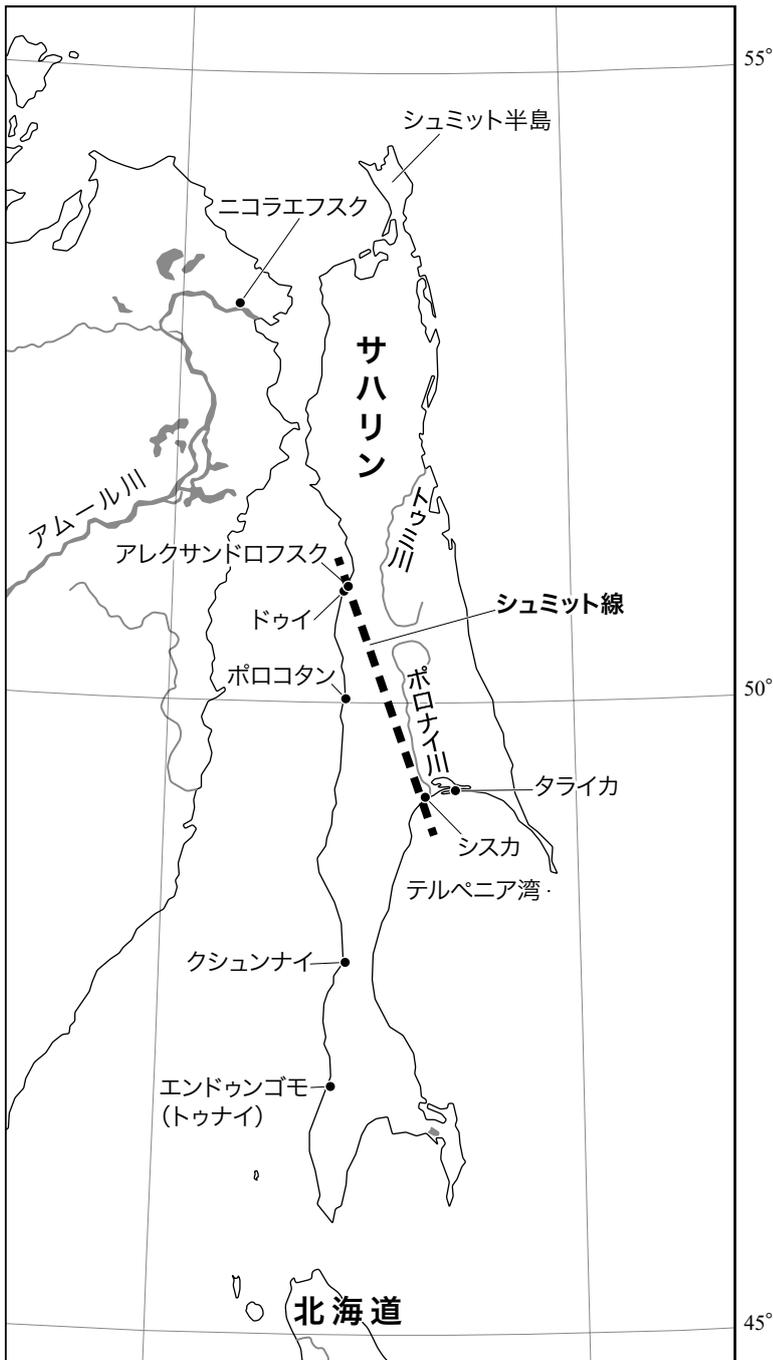


図1 本稿に関連する地名

(1868)、Schmidt (1873)、Schmidt (1874) など複数公刊された。

### 3 『Reisen』について

『Reisen』はシュミットが調査から帰還して5年後の1868年に公刊された。同書は2部に分かれており、第1部は「アムグン・ブレヤ地方植物誌」として、大陸のアムグン川流域の地理、気候、植物相について記述しており、第2部は「サハリン植物誌」として、サハリン島に関する同様の記述が続く。この第2部の総論部分で、

シュミットはサハリンの植物相が南西部と北東部の二つの地域に分けられることを指摘した。後に日本の植物学者工藤祐舜は、区分線として東海岸のテルペニア湾と西海岸のアレクサンドロフスクを結ぶ線を設定し、この境界線を「シュミット線」(Schmidtsche Linie)と呼ぶことを提案した(Kudo 1927)。この境界線はその後の植物学者たち(例えばMiyabe and Tatewaki 1937、Pietsch et al. 2012)によってさらに詳しく研究された。

第1部・第2部とも、各論部分は植物相リストとなっており、シュミットと同僚たちが現地調査で記録した

植物の学名および解説が記述されている。これが本書の主要な内容である。サハリンについては589種の維管束植物が列挙されており、そのうち40種はシュミットによって新たに命名されたものである（高橋 2024：81）。一部の種については、現地の先住民による名称と植物利用に関する情報も書かれている。

第2部の植物相リストの後には、サハリンの3つの先住民言語による植物名称の一覧が掲載されている（図2）。これが本研究で対象とする情報である。上記の植物利用に関する記述も合わせて、シュミットらが民族植物学的な情報をも調査し、報告した経緯については判然としない。しかしながら前述のとおりサハリン先住民言語に関するこの時代の数少ない記録のひとつとして重要であり、現代の視点からさまざまな分析を加えることで新たな知見を得ることが期待できる。

一覧は4つの部分から成る。まず3言語の言語別一覧がアイヌ語（「Aino」、pp.210-212）、ニヴフ語（「Giläken」、pp.212-214）、ウイльта語（「Oroken」、p.214）の順に並ぶ。これら3つは、それぞれの植物名称のドイツ語アルファベット順に配列されている。掲載項目数はアイヌ語111項目、ニヴフ語122項目、ウイльта語11項目である。最後に、これら3つを統合し、植物の学名を見出し語として分類順に配列した、分類順一覧（p.215-217、131項目）が掲載されている。

先住民言語の植物名称の表記には、シュミットはロシアの植物学者でバルト・ドイツ人のマキシモヴィッチがアムール川流域で先住民言語の植物名称を記録した際に用いたドイツ語正書法に準拠した表記法を踏襲している（例：Wach [βax]「コケ」）（Maximowicz 1859）<sup>6)</sup>。先住民言語の方言は特記されていない限り、アイヌ語はクシュンナイとエンドウゴモの方言、ニヴフ語はドゥイ方言のものとされている（Schmidt 1868：215）。ウイльта語名称はすべてシスカで記録されている。またアイヌ語名称については、一部に間宮林蔵が記録した名称が併記されている（例：“Aiman (Aimai M), Juniperus”のように「M」を付記）。これはシーボルトの『Nippon』（Siebold 1832）を典拠としている。

#### 4 『Reisen』で報告された植物名称

『Reisen』の植物名称一覧において報告されているアイヌ語・ニヴフ語・ウイльта語による植物名称について、現在の植物分類学的知見に基づいた整理を行った。

シュミットはこの植物名称一覧において大部分の植物を学名で示している。生物の学名は本来世界共通のものであるが、実際には研究者により見解が異なる場合があ

り、また、研究の進展により時代とともに変化するものである。そのような理由により、ある特定の植物種を示す学名が2つ以上存在する場合も少なくない。現在の命名規約では、それらのうちただひとつの学名を「正名」として扱う（日本植物分類学会 国際命名規約邦訳委員会 訳・編集 2019）。シュミットの使っている植物名（学名）のうちには、現代でも正名として通用するものもあるが、そうでないものもあった。その場合、シュミットの学名が現代の正名では何に対応するのか（すなわち、シュミットの報告した植物が現代の分類ではどの植物種に相当するのか）を調べる必要があった。また、この植物名称一覧のうちいくつかの種は明らかにサハリンには分布していないものであり、別種の誤同定であろうと推測された。それらの種が正しくほどの種に相当するのかを判断する必要があった。そのような学名の新旧・正誤の照合にあたっては、主に『環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録』（伊藤ほか編著 1987、伊藤ほか編著 1990・1994）およびYList（米倉・梶田 2003）を参照した。最終的に採用した学名に基づいて整理した結果を表2に示す。表の左半分は現在の植物分類学的知見に基づいた情報である。和名・学名、分類体系および掲載順は、種子植物に関してはおおむね『改訂新版 日本の野生植物 1～5』（大橋ほか編 2015～2017）に従ったが、適宜、YListおよび高橋（2024）も参考にした。各科内では学名のアルファベット順に並べた。検索の便宜のため、表には英名・ロシア語名も記載した。ロシア語名はСмирнов（2002）に従った。

表の右半分は、『Reisen』の植物名称一覧に記載されている情報である。左端は『Reisen』でシュミットが用いている学名、その右がアイヌ名、次いで間宮によるアイヌ名、ニヴフ名、ウイльта名と続く。3言語による植物名称は、一覧では頭文字が大文字で表記されている（図2参照）が、表2ではすべて小文字に統一した。一覧の中で記述されている名称の語源（意味）、利用に関する情報など植物名称以外の補足的な情報は、「備考」として表の右端に日本語および英語で記載した。植物名称一覧において種まで特定されず属以上の分類群のみが記載されている場合、原則としてそこに「sp.」が付けられている場合はその分類群に属するひとつの種（ただしどの種か特定はできない）を指すもの（例えば、「Carex sp.」はスゲ属のある1種）、「sp.」がない場合はその分類群を指すもの（例えば、「Lycopodium」はヒカゲノカズラ属全体を指す）として扱った。ただし「Salix sp.」については、ヤナギ属は同定が難しいことから、特定の種ではなく複数種を含む総称と判断した。また、属までしか記載されていない場

合でも、サハリンに分布する種が限られるなどの理由から種を特定できた場合もある。

特定できた植物は148項目となった。このうち維管束植物については、特定できた科・属・種はそれぞれ54科・104属・125種（一覧で「？」が付けられている種も含む）であった。

各言語の植物名称については、言語別一覧と分類順一覧を区別せずに合わせて扱った。ただし、両者の表記が異なる場合は、それらを並記し、後者の表記にアスタリ

スクマーク（\*）を附した。言語別一覧では、その名称が指す具体的な種等（学名）が不詳の植物についても、その特徴や利用法などについての簡単な説明と共に掲載されている。本表では、それらの植物種についても表の最後にまとめて掲載した。

本稿の末尾には、和名・英名・ロシア語名・アイヌ語名・ニヴフ語名・ウイльта語名の各索引を附した。

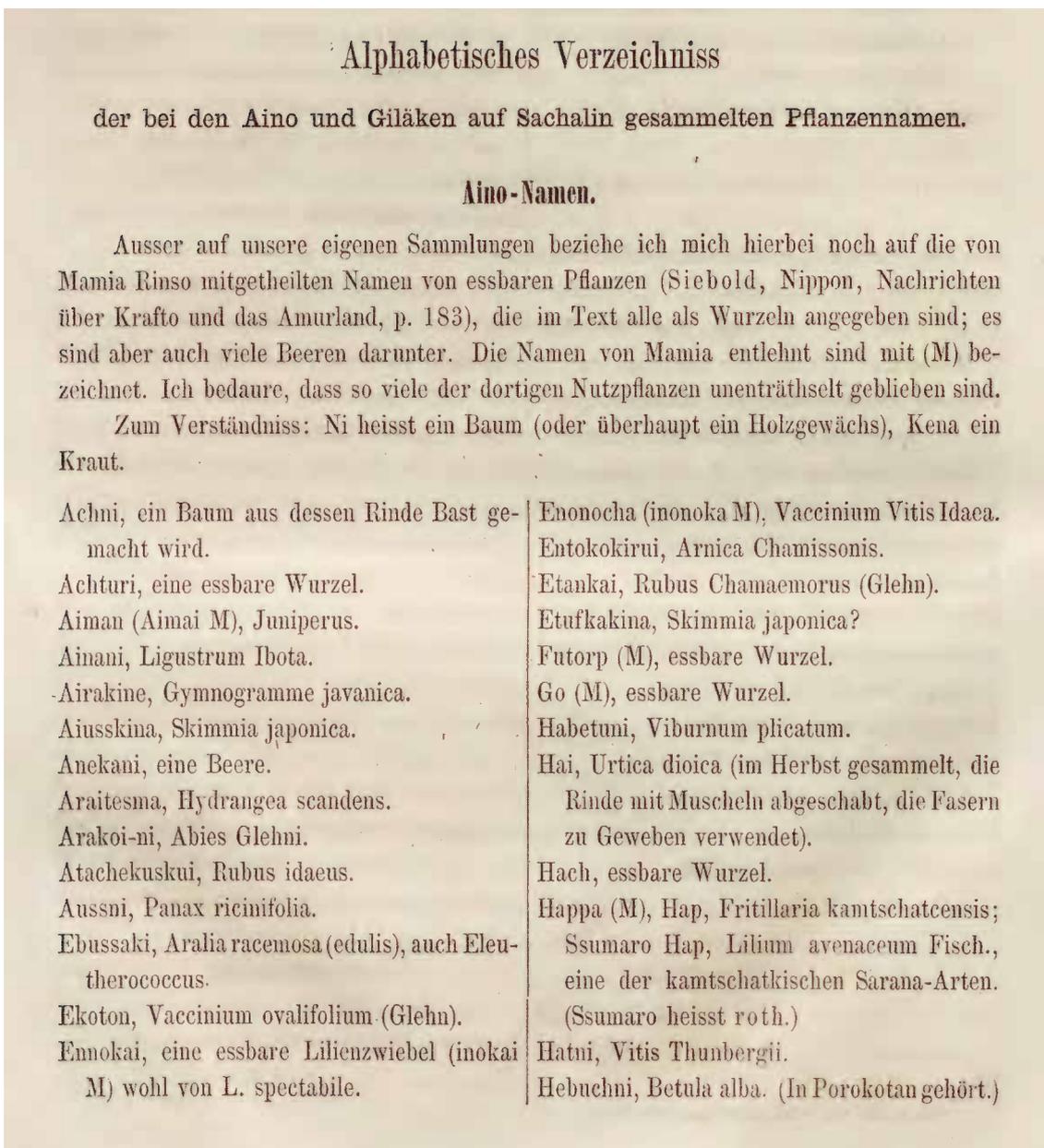


図2 『Reisen』の植物名称一覧（一部）

3言語の言語別一覧のうちアイヌ語部分の冒頭 (p.210) を例示する。アイヌ語の植物名称が見出し語としてアルファベット順に配列され、その後に該当する植物の学名が記載されている。例えば3項目めでは、見出し語の「Aiman」はシュミットらが記録したアイヌ語名。「Aimai M」は間宮林蔵による記録が「Aimai」であることを示す。「Juniperus」はそれらの名称が指す植物の学名であり、Juniperus属(ネズミサシ属)であることを示す。

## 5 おわりに

本稿で紹介した『Reisen』の民族植物学上の記録についての研究はほぼ手付かずであることから、今後の研究の展望に言及し締めくくりとしたい。サハリン先住民言語の植物名称・利用の研究自体は今日も続けられていることから、その成果を19世紀半ばにシュミットが記録した情報と比較・対照することで様々な知見が得られる。サハリン先住民言語は現在では日常的に使われることはなく、植物名称についても現在の話者が記憶していないことも多い。『Reisen』の記録はそうした情報を補完するのみならず、失われやすい植物名称と記憶に残りやすい植物名称を明らかにし、その背景についての研究に途を開く可能性がある。

また『Reisen』と同時代のサハリンおよびその周辺地域の先住民言語による植物名称の記録は少数ながらも複数存在しており、そうした記録との比較・対照研究も今後の課題である。例えば前述のMaximowicz (1859) の『Primitiae florum Amurensis』にはアムール川流域のニヴフ語およびツングース諸語による植物名称が記録されているが、それを『Reisen』の記録と比べることで言語間の借用関係や言語内における言語地理学上の知見が得られる可能性がある。そしてそうした知見を利用して歴史言語学的手法による祖語再構を試み、それを近年急速に研究が進む北東アジアの考古学と考古植物学の研究成果と組み合わせてサハリン先住民の故地や移動に関する研究に活用することも期待できる。

ただし『Reisen』の時代の記録は、言語学的手法をもって各言語の音韻体系が明らかにされる前の時代になされた聞き書きによるものであり、上記の研究に供する資料としては正確さに欠ける。そのため、今後公開を予定している本報の第2編においては、まずは当時の植物名称の語形の再構を試みることにしたい。そのためには、現代の話者が記憶している語形を参考に、これまで歴史言語学的手法により明らかになっている各言語の音変化に関する知見を活用する必要がある。

このように、サハリン先住民言語の古い時代の記録は限定的ではあるが、本稿がその一端を明らかにしたとおり現存する記録の資料的な価値は高く、今後の研究に展望を抱けるものである。

## 謝辞

本研究はJSPS科研費 JP19K01240の助成を受けたものである。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 中村剛氏には、文献の入手にあたって御協力をいただいた。以上について、御礼申し上げる。

## 註

- (1) 「帝立」は後に地理学協会の名称に追加された (Bassin 1983)。
- (2) フリードリヒ・シュミットはリヴォニア県 (現在のエストニアとラトビアの一部) カイスマに生まれた。1855年、ドルパート大学 (タルトゥ大学のドイツ語旧称) にて地質学の修士号を取得した (Baltische Historische Kommission 2024)。サハリン島最北端のシュミット半島はシュミットの名前に由来する。
- (3) 本稿におけるサハリン島中の地名は『Reisen』の表記をカナ転写したものである。
- (4) シュミット一行が1860年8月に西海岸トゥナイ (トンナイ) に到着し、さらに南下して調査を継続しようとしたところ日本側の幕吏に通行を阻まれた。当時サハリンは日露通好条約 (1855年) により日露両国間で国境を設けないことが定められていたものの、南部は日本側が実効支配していたためであった。シュミットは諦めず、箱館のロシア領事館を通じて日本側と交渉しグリーンとブリルキンの南部調査を1861年夏に実現させた (秋月 1994)。
- (5) 「名称はドイツ語の発音に用いられるものから原音になるべく近い表記で書かれている。sは軟音として、ngはフランス語のように鼻を通じ、shはフランス語のjやロシア語のжのように発音される」 (Maximowicz 1859: 497、筆者によりドイツ語原文から翻訳)。

## 引用文献

- 秋月俊幸 1994. 日露関係とサハリン島. 筑摩書房.
- Baltische Historische Kommission, 2024, Schmidt, Friedrich Karl (1832-1908), *Baltisches Biografisches Lexikon digital*. <https://bbld.de/0000000083814552> (2024年10月閲覧)
- Bassin, Mark, 1983, The Russian Geographical Society, the "Amur Epoch," and the Great Siberian Expedition 1855-1863. *Annals of the Association of American Geographers* 73 (2): 240-256.
- Forsyth, James, 1992, *A history of the peoples of Siberia*. Cambridge University Press, Cambridge.
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹 編著 1990. 環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録 II 単子葉植物. たくぎん総合研究所.
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹 編著 1994. 環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録 III 離弁花植物. たくぎん総合研究所.
- 伊藤浩司・日野間彰・たくぎん総合研究所 編著 1987. 環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録 IV 合弁花植物. たくぎん総合研究所.
- Kudo, Yushun, 1927, Über die Pflanzengeographie Nordjapans (die Inseln Kurilen eingeschlossen) und der Insel Sachalin [On the botanical geography in northern Japan (the Kuril Islands included) and the Sakhalin Island]. *Österreichische Botanische Zeitschrift* 76: 306-311.
- Maximowicz, Carl, 1859, *Primitiae florum Amurensis* [Flora of the Amur region]. Buchdruckerei der kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, St. Petersburg.
- Miyabe, Kingo and M. Tatewaki. 1937. On the significance of the Schmidt line in the plant distribution in Saghalien. *Proceedings of the Imperial Academy* 13: 24-26.

- 水島未記・白石英才・丹菊逸治 2007. ニヅフ語の植物名称：東方言を中心に. 北海道開拓記念館研究紀要 35: 1-10.
- 水島未記・白石英才・丹菊逸治 2017. サハリンの植物相および植生から見たニヅフの植物資源利用. 北海道博物館研究紀要 2: 1-14.
- 日本植物分類学会 国際命名規約邦訳委員会 訳・編集 2019. 国際藻類・菌類・植物命名規約 (深圳規約) 2018 日本語版. 北隆館.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編 2015-2017. 改訂新版 日本の野生植物 1~5. 平凡社.
- Pietsch, Theodore and 22 others. 2012. Biodiversity and biogeography of Sakhalin island. In V. V. Bogatov, V. Yu. Barkalov, A. S. Lelej, E. A. Makarchenko and S. Yu. Storozhenko (eds.) *Flora and fauna of North-West Pacific islands (Materials of International Kuril Island and International Sakhalin Island Projects)*. pp.11-78. ChapPublisher: Dalnauka, Vladivostok.
- Primorye Branch of the Russian Geographical Society. 2020. *Om Географического общества* [From the Geographical Society]. <https://oiak.pf/ot-geograficheskogo-obschestva> (2024年10月閲覧)
- Schmidt, Friedrich. 1868. *Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin, im Auftrage der Kaiserlich-Russischen Geographischen Gesellschaft Ausgefuehrt. Botanischer Theil*. Mémoires de l'Academie Impériale des Sciences de St. Pétersbourg, VIIIe Serie, Tome XII, No.2.
- Schmidt, Friedrich. 1873. Окаменелости меловой формации с острова Сахалина, *Труды сибирской экспедиции Императорского русского географического общества. Физический отдел*. Т. 3. вып. 1. СПб.
- Schmidt, Friedrich. 1874. Ботаническая часть, *Труды сибирской экспедиции Императорского русского географического общества. Физический отдел*. Т. 2. СПб.
- Schmidt, Friedrich and P. von Glehn. 1868. *Труды сибирской экспедиции Императорского русского географического общества. Физический отдел*. Т. 1. Исторические отчёты. СПб.
- Schmidt, Friedrich, P. von Glehn and A. D. Brylkin. 1868. Reisen im Gebiete des Amurstromes und auf der Insel Sachalin. In the series *Beiträge zur Kenntniss des Russischen Reiches*. Bd. 25. Keiserliche Akademie der Wissenschaft, St. Petersburg.
- von Siebold, Philipp. 1832. *Nippon: Archiv zur Beschreibung von Japan*. Leyden: C. C. van der Hoek.
- Смирнов, А. А. 2002. *Распространение сосудистых растений на острове Сахалин*. Институт морской геологии и геофизики Дальневосточное отделение РАН, Южно-Сахалинск.
- Stephan, John, 1971. *Sakhalin: A history*. Clarendon press, Oxford.
- 高橋英樹 2024. サハリン島の植物. 北海道大学出版会.
- Тютчев, Фёдор, 1913, *Россия и Германия* [written in 1844]. Полное собрание сочинений Ф. И. Тютчева, ed. П. В. Быков. 279–295. Издание Т-ва А. Ф. Маркс, СПб.
- 米倉浩司・梶田忠 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス (YList) . <http://ylist.info> (2024年10月閲覧)

表2 『Reisen』の先住民言語による植物名称一覧の再整理結果  
Table 2. Reidentified plants in the indigenous plant name lists in *Reisen*

科名 Family name in Japanese	科名学名 Family name in Latin	No.	和名 Japanese name	学名 Latin name	英名 English name	ロシア名 Russian name
—	—	1	コンブ属	<i>Laminaria</i> spp.	Laminarias	ламинария
		2	コンブ属の1種	<i>Laminaria</i> sp.	Laminaria	ламинария
—	—	3	コケ植物 (総称)	Bryobiotina	moss	Мохообразные
ヒカゲノカズラ科	Lycopodiaceae	4	ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i> spp.	clubmosses	пулаун
		5	ヒカゲノカズラ属の1種	<i>Lycopodium</i> sp.	clubmoss	пулаун
トクサ科	Equisetaceae	6	トクサ	<i>Equisetum hyemale</i> L.	rough horsetail	хвощ зимующий
		7	トクサ属の1種	<i>Equisetum</i> sp.	horsetail	хвощ
—	—	8	薄葉シダ類 (総称)	Polypodiidae	ferns	Папоротниковые
イノモトソウ科	Pteridaceae	9	イワガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i> Hieron.	a species of ferns	кониограмма средняя
マツ科	Pinaceae	10	トドマツ	<i>Abies sachalinensis</i> (F. Schmidt) Mast.	Sakhalin fir	пихта сахалинская
		11	グイマツ	<i>Larix gmelinii</i> (Rupr.) Kuzen.	Dahurian larch	лиственница Каяндера
		12	エゾマツ	<i>Picea jezoensis</i> (Siebold et Zucc.) Carr. var. <i>jezoensis</i>	Yezo spruce	ель аянская
		13	アカエゾマツ	<i>Picea glehnii</i> (F. Schmidt) Mast.	Sakhalin spruce	ель Глена
		14	ハイマツ	<i>Pinus pumila</i> (Pall.) Regel	Siberian dwarf pine	кедровый стланник
ヒノキ科	Cupressaceae	15	ネズミサシ属	<i>Juniperus</i> spp.	junipers	можжевельник
		16	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> L. var. <i>montana</i> Aiton	common juniper	можжевельник сибирский
イチイ科	Taxaceae	17	イチイ	<i>Taxus cuspidata</i> Siebold et Zucc.	Japanese yew	тис остроконечный
ウマノスズクサ科	Aristolochiaceae	18	オクエゾサイシン	<i>Asarum heterotropoides</i> F. Schmidt	wild ginger	копытень гетеротроповидный
サトイモ科	Araceae	19	ミズバショウ	<i>Lysichiton camtschatcensis</i> (L.) Schott	Asian skunk cabbage	временнокрыльник камчатский
シュロソウ科	Melanthiaceae	20	オオバナノエンレイソウ	<i>Trillium camtschatcense</i> Ker Gawl.	trillium	триллиум камчатский
ユリ科	Liliaceae	21	ツバメオモト	<i>Clintonia udensis</i> Trautv. et C. A. Mey.	Clintonia udensis	клинтония удская
		22	クロユリ	<i>Fritillaria camtschatcensis</i> (L.) Ker Gawl.	Kamchatka lily	рябчик камчатский
		23	エゾスカシユリ	<i>Lilium pensylvanicum</i> Ker Gawl.	Siberian lily	лилия пенсильванская
		24	クルマユリ	<i>Lilium medeoloides</i> A. Gray	<i>Lilium medeoloides</i>	лилия слабая
ラン科	Orchidaceae	25	ホテイアツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> Sw.	lady'slipper	венерин башмачок крупноцветковый
アヤメ科	Iridaceae	26	ヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> Pall. ex Link	bristle-pointed iris	касатик щетинистый
ヒガンバナ科	Amaryllidaceae	27	ギョウジャニンニク	<i>Allium victorialis</i> L. subsp. <i>platyphyllum</i> Hultén	Siberian onion	лук охотский (черемша)
		28	ミヤマラッキョウ	<i>Allium splendens</i> Willd. ex Schult. et Schult. f.	Japanese scallion	лук блестящий

『Reisen』における記録 Record in Reisen						
学名 Latin name	アイヌ名 Ainu name	間宮のアイヌ名 Ainu name by Mamiya	ニヴフ名 Nivkh name	ウイльта名 Uilta name	備考の日本語訳 Remarks (in Japanese)	備考の英訳 Remarks (in English)
Laminaria			pytschj			
Laminaria esculenta			pytschj			
Moos			wach			
Lycopodium	tunnakai kena				翻訳すると「トナカイの草」	translates to "Reindeer herb"
Lycopodium sp.	tunnakaikena				「トナカイの草」という意味	lit. Reindeer herb
Equisetum hyemale	tuksa, tukssa*					
			he			
Equisetum sp.			ché			
Pteris, Aspidium, Struthiopteris und andere Farne			warsspi, wassji		イノモトソウ属、オシダ属、クサソテツ属、その他のシダ類	Pteris, Aspidium, Struthiopteris and other ferns
Gymnogramme javanica	airakine					
Abies Veitchi var. sachalinensis	jaju					
Abies sachalinensis			njarngi, njarngi* (Dui)			
			ngaring (Tymi), ngaryng* (Tymi)	wángita		
Larix daurica	kui					
			koi	ssissi		
Picea ajanensis	ssungu, sunku					
Abies ajanensis			tuéssk, tuissk			
				chásikta		
Abies Glehni	arakoi ni					
Pinus pumila	noni					
	noni (サハリン南部)					
	nibui (サハリン南部、毬果)					
	numni (Taraika)					
num (Taraika, 毬果)						
Cembra pumila			him			
Pinus pumila			tós (毬果)			
Pinus (Cembra) pumila				wókdo		
Juniperus	aiman	aimai				
			oétta			
Juniperus communis			oétta			
Taxus baccata	taromani					
			tarmanj			
Asarum heterotropoides			tschjuch tshombr		「熊の葉」という意味	lit. Bear leaf
Lysichitum kamschatcicum			twirssk			
Trillium obovatum			hilm, ilm			
Clintonia udensis			katschiling planch, katschiling-planch*			
Fritillaria kamschatcensis	hap, happu*	happa				
	kitó				鱗茎は重要な食材である	The bulbs [are] an important food source
			hark			
Lilium spectabile			kark, karschk, karchk, kassk		harkを参照	see hark
	ennokai	inokai			食用のユリの球根、おそらく <i>L. spectabile</i>	an edible lily bulb (inokai M) Probably from <i>L. spectabile</i>
			nork, nossk			
Lilium avenaceum Fisch.	ssumaro hap				カムチャッカのサラナ種の一つ (Ssumaroは「赤い」という意味)	one of the Kamchatkan Sarana species. (Ssumaro means red.)
Cypripedium, Cypripedium macranthum			wetchant			
Iris setosa			walmi			
Allium victorale			hagi, hagi*			
Allium lineare			öllu			

科名 Family name in Japanese	科名学名 Family name in Latin	No.	和名 Japanese name	学名 Latin name	英名 English name	ロシア名 Russian name
キジカクシ科	Asparagaceae	29	キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i> Kunth	wild asparagus	спаржа шобериевидная
		30	コバギボウシ	<i>Hosta sieboldii</i> (Paxton) J. W. Ingram	small-leaved plantain lily	хоста прямолстная
		31	マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i> (A. W. Wood) A. Nelson et J. F. Macbr.	snakeberry	майник широколистный
		32	オオアマドコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> (Mill.) Druce var. <i>maximowiczii</i> (F. Schmidt) Koidz.	angular Solomon's seal	купена Максимовича
カヤツリグサ科	Cyperaceae	33	オオカサスゲ	<i>Carex rhynchophysa</i> C. A. Mey.	a species of sedge	осока вздутоносая
		34	スゲ属の1種	<i>Carex</i> sp.	sedge	осока
		35	スゲ属の1種	<i>Carex</i> sp.	sedge	осока
イネ科	Poaceae	36	テンキグサ	<i>Leymus mollis</i> (Trin. ex Spreng.) Pilg.	sea lyme-grass	колосняк мягкий
		37	ヨシ	<i>Phragmites australis</i> (Cav.) Trin. ex Steud.	common reed	тростник южный
		38	チシマザサ	<i>Sasa kurilensis</i> (Rupr.) Makino et Shibata	Kuril bamboo	саса курильская
ケシ科	Papaveraceae	39	エゾエンゴサク	<i>Corydalis fumariifolia</i> Maxim. subsp. <i>azurea</i> Lidén et Zetterlund	corydalis	хохлатка сомнительная
メギ科	Berberidaceae	40	サンカヨウ	<i>Diphylleia grayi</i> F. Schm.	skeleton flower	двулистник Грея
キンボウゲ科	Ranunculaceae	41	ミヤマオダマキ	<i>Aquilegia flabellata</i> Siebold et Zucc. var. <i>pumila</i> (Huth) Kudô	fan columbine	водосбор всеорвидный
		42	エゾノリュウキンカ	<i>Caltha fistulosa</i> Schiweiz.	<i>Caltha fistulosa</i>	калужница дудчатая
		43	エゾミヤマハンショウヅル	<i>Clematis ochotensis</i> (Pall.) Poiret var. <i>ochotensis</i>	a species of clematis	княжник охотский
ポタン科	Paeoniaceae	44	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i> Maxim.	woodland peony	пион обратнойцевидный
スグリ科	Grossulariaceae	45	エブスグリ	<i>Ribes latifolium</i> Jancz.	broadleaf currant	смородина широколистная
		46	トガスグリ	<i>Ribes sachalinense</i> (F. Schmidt) Nakai	a species of currant	смородина сахалинская
ブドウ科	Vitaceae	47	ヤマブドウ	<i>Vitis coignetiae</i> Pulliat ex Planch.	crimson glory vine	виноград Конье
マメ科	Fabaceae	48	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i> (L.) Shinz et Thell.	a species of sweetvetch	копечник копечниковый
バラ科	Rosaceae	49	オニシモツゲ	<i>Filipendula camtschatica</i> (Pall.) Maxim.	<i>Filipendula camtschatica</i>	лабазник камчатский
		50	オオヤマザクラ	<i>Cerasus sargentii</i> (Rehder) H. Ohba var. <i>sargentii</i>	Sargent's cherry	вишня сахалинская
		51	オオバサンザシ	<i>Crataegus maximowiczii</i> C. K. Schneid.	a species of hawberry	боярышник зеленомякотный
		52	エゾノウミズザクラ	<i>Padus avium</i> Mill.	bird cherry	черёмуха обыкновенная
		53	シウリザクラ	<i>Padus ssiroi</i> (F. Schmidt) C. K. Schneid.	Japanese bird cherry	черёмуха съери
		54	カラフトイバラ	<i>Rosa amblyotis</i> C. A. Mey.	a species of rose	шиповник тупошковый
		55	ハマナス	<i>Rosa rugosa</i> Thunb.	Japanese rose	шиповник морщинистый
		56	バラ属の1種	<i>Rosa</i> sp.	unidentified species of rose	шиповник
		57	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i> L.	Arctic raspberry	рубус арктический (княженика)

水島未記ほか サハリンの民族植物学：現代の視点から見た『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』1

『Reisen』における記録 Record in Raisen						
学名 Latin name	アイヌ名 Ainu name	間宮のアイヌ名 Ainu name by Mamiya	ニヴフ名 Nivkh name	ウイльта名 Uilta name	備考の日本語訳 Remarks (in Japanese)	備考の英訳 Remarks (in English)
Asparagus Sieboldi			assini			
Funkia obovata, Funkia ovata	kiü					
Smilacina bifolia			kam			
Polygonatum Maximowiczii			wet-puks, wet puks*			
Carex rhynchophysa	orekon, örekon*					
Carex sp.			patsch			
Carex sp.			wolmi			
Elymus mollis	tokoki				ヨシまたはテンキグサで、編んだ敷物を作るために使われる	Calamagrostis or Elymus mollis, used for mats [lit. mat meshes]
	toköki*		mussingi, mussingi*		後者の名称 (toköki) は、編み物に使われる草一般に対して用いられる 葉は罾の縄に、細い根の繊維は (楽器の) 弦に (使われる)	latter name [toköki] generally for grasses used for wickerwork The leaves are used for snares, the fine root fibers are used for strings [of a musical instrument].
Phragmites communis			tiufk			
Arundinaria kurilensis	huru, puru		tif			
Corydalis ambigua	tomó, tóma*		tiuschk, tiurk (Dui)		塊茎は重要な食料である	its tubers [are] an important food source
			tyrch, tschyrch (Tymi)		塊茎は重要な食料である	The tubers [are an] important food source
Diphylleja Grayi			hemgul, chemgul*			
Aquilegia flabellata			njägr kytych			
Caltha palustris			atr, atz			
Atragene alpina			tschorbi			
Paeonia obovata			dögr			
Ribes rubrum	karamba					
	ssumaro (果実)				Ribes rubrum の果実 (「赤い果実」という意味)	Berries from Ribes rubrum (lit. red berries)
	ssumaró (果実)				その果実はアイヌ語で ssumaró (「赤い果実」という意味) と呼ばれる	[its] berries [are called] ssumaró (lit. red berries)
			tschamrass			
Ribes affine			nebdongi, newodong, natki alss			
Vitis Thunbergii	hatni					
Hedysarum obscurum			utin			
Spiraea kamschatica			kyss, kytsch			
Prunus Pseudo-Cerasus	ssirimba					
Crataegus sanguinea	unseni, unseni*		khysm			
				dapágta		
Prunus Padus	kap (果実)		itkyt (Tymi)			
			kup, kap (Tymi, 果実を潰して作った菓子)		エゾノウワミズザクラの果実を潰して作った菓子	Cake made from mashed berries of Prunus Padus
			tatsch, itkyt (Tymi)		潰した果実から作られた菓子は kyp と呼ばれる	Cake made from squashed berries kyp
			taïss, tatsch			
			taïss (Dui)			
Prunus Ssiori	ssiori, ssiora*					
Rosa cinnamomea	manui					
Rosa rugosa	otarú (果実)		pila latsch		Rosa rugosa の食用の果実	the edible fruits of Rosa rugosa
Rosa sp. unbestimmt			kydemla nyks		unbestimmt: 「未同定」	unbestimmt: unidentified
			odr-rif			
			terkochj			
Rubus arcticus	ssachturechni					

科名 Family name in Japanese	科名学名 Family name in Latin	No.	和名 Japanese name	学名 Latin name	英名 English name	ロシア名 Russian name
		58	キタホロムイイチゴ	<i>Rubus chamaemorus</i> L. var. <i>chamaemorus</i>	cloudberry	рубус приземистый (морозка)
		59	エゾキイチゴ (エゾイチゴ)	<i>Rubus idaeus</i> L.	red raspberry	малина сахалинская
		60	ホザキナナカマド	<i>Sorbaria sorbifolia</i> (L.) A. Braun var. <i>stellipila</i> Maxim.	false spiraea	рябинник рябинолистный
		61	ナナカマド	<i>Sorbus commixta</i> Hedl. var. <i>commixta</i>	Japanese rowan	рябина смешанная
		62	タカネナナカマド	<i>Sorbus sambucifolia</i> (Cham. et Schldl.) M. Roem. var. <i>sambucifolia</i>	a species of rowans	рябина бузинолистная
		63	ホザキシモツケ	<i>Spiraea salicifolia</i> L.	bridewort	таволга иволистная
ニレ科	Ulmaceae	64	ニレ属	<i>Ulmus</i> spp.	elms	ильм
		65	オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i> (Trautv.) Mayr	Manchurian elm	ильм лопастный
		66	ニレ属の1種 (オヒョウ?)	<i>Ulmus</i> sp. ( <i>U. laciniata</i> (Trautv.) Mayr?)	a species of elms (Manchurian elm?)	ильм (ильм лопастный?)
		67	ニレ属の1種	<i>Ulmus</i> sp.	a species of elms	ильм
イラクサ科	Urticaceae	68	エゾイラクサ	<i>Urtica platyphylla</i> Wedd.	a species of nettles	крапива плосколистная
ブナ科	Fagaceae	69	モンゴリナラ	<i>Quercus mongolica</i> Fisch. ex Ledeb.	Mongolian oak	дуб курчавенький
ヤマモモ科	Myricaceae	70	ヤチヤナギ	<i>Myrica gale</i> L. var. <i>tomentosa</i> C. DC.	bog-myrtle	восковник пушистый
カバノキ科	Betulaceae	71	ミヤマハンノキ	<i>Alnus alnobetula</i> (Ehrh.) K. Koch subsp. <i>maximowiczii</i> (Callier) Chery	green alder	ольховник Максимовича
		72	ケヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta</i> (Spach) Turz. ex Rupr.	grey alder	ольха волосистая
		73	シラカンバ	<i>Betula platyphylla</i> Sukaczew	Asian white birch	берёза плосколистная
		74	ダケカンバ	<i>Betula ermanii</i> Cham. var. <i>ermanii</i>	Erman's birch	берёза Эрмана
ニシギギ科	Celastraceae	75	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.	Oriental bitterweet	древгоубец крупнолистный
		76	ヒロハノツリバナ	<i>Euonymus macropterus</i> Rupr.	a species of spindles	бересклет большешкрылый
		77	ツリバナ属	<i>Euonymus</i> spp.	spindles	бересклет
カタバミ科	Oxalidaceae	78	コミヤマカタバミ	<i>Oxalis acetosella</i> L.	wood sorrel	кислица обыкновенная
ヤナギ科	Salicaceae	79	ドロヤナギ	<i>Populus suaveolens</i> Fisch.	Mongolian poplar	тополь душистый
		80	カラフトヤマナラシ (広義)	<i>Populus tremula</i> L. var. <i>sieboldii</i> (Miq.) Kudô	common aspen	тополь дрожащий
		81	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i> Trautv. et C. A. Met	a species of willow	ива удская

『Reisen』における記録 Record in Reisen						
学名 Latin name	アイヌ名 Ainu name	問宮のアイヌ名 Ainu name by Mamiya	ニヴフ名 Nivkh name	ウイльта名 Uilta name	備考の日本語訳 Remarks (in Japanese)	備考の英訳 Remarks (in English)
Rubus Chamaemorus	etankai					
	atachokusui (Porokotan)					
Rubus idaeus			edeni alss			
	atachekuskui		kelacham, kelcham, kelacham alss*			
Spiraea sorbifolia			agusskuss			
Sorbus aucuparia	inaunini, inaú-nini*					
			medslanj, mesla			
Sorbus sambucifolia	kaburukuni, kabu-rukuni*				ベリーを食用とする	The berries [are] eaten
			métschak nyks			
Spiraea salicifolia	spúnkuriki, spankuriki*					
Ulmus	karoni ni					
Ulmus montana			chartsch			
Ulmus (U. montana?)	karoni ni				韌皮が織物に使用されるニレの一種 (U. montana?) で、kara ni と同じものだと思われる	a species of elm (U. montana?), whose bast is used for weaving, likely identical with kara ni
Ulmus sp.	obiu				その韌皮が織物に(使われる)	The bast for weaving
Urtica dioica	hai				秋に収集される／貝殻を使って樹皮を削り取る／その繊維が織物に使われる	collected in autumn, the bark [is] scraped off with seashells, the fibers are used for weaving
			hisk, hiss*			
Quercus mongolica	ossitri					
	tunni, túnni*					
Myrica Gale			kmyi (Amur)			
	tsachturchni, tschuchturchni*					
			eggadam (Tymi)			
Alnaster fruticosus			kegla			
			kégla (Dui)			
	hurekani, hurékani*					
Alnus incana			héungi			
	kiné			gèun, géun*		
			chanj		尾状花序はchanj nymと呼ばれる	the catkins chanj nym
Betula alba				ssolsikta		
	hebuchi (Porokotan)					
	tatsni					
	he-buchi (Porokotan)					
Betula Ermani			hibis, hibbis*, hiwis			
				pé		
	tachni					
			kerachos (Dui)			
Celastrus articulatus			kero-öss (Tymi)			
				dshiwakta		
	ossómani					
Evonymus macropterus			persch, perss		弓に使われる	Used for bows
	kongeni					
Evonymus	kóngeni				全ての種、特にmacropterusは弓に使われる	all species, especially macropterus, which is used for bows
Oxalis Acetosella			tuntra-ten			
Populus suaveolens	tamukabarani, tamu-kabarani*				その幹から舟が作られる	from whose trunks boats are made
			mussjkr			
Populus tremula			kannant tigr			
Salix sachalinensis			kuengi			

科名 Family name in Japanese	科名学名 Family name in Latin	No.	和名 Japanese name	学名 Latin name	英名 English name	ロシア名 Russian name
		82	ヤナギ属	<i>Salix</i> spp.	willows	ивы
フウロソウ科	Geraniaceae	83	チシマフウロ	<i>Geranium erianthum</i> DC.	woolly geranium	герань волосистоцветковая
ウルシ科	Anacardiaceae	84	ツタウルシ	<i>Toxicodendron orientale</i> Greene subsp. <i>orientale</i>	Asian poison ivy	ипритка восточная
ムクロジ科	Sapindaceae	85	エゾイタヤ	<i>Acer pictum</i> Thunb. subsp. <i>mono</i> (maxim.) H. Ohashi	yellow-paint maple	клён Майра
		86	オガラバナ	<i>Acer ukurunduense</i> Trautv. et C. A. Mey.	candle-shape maple	клён желтый
		87	オガラバナ?	<i>Acer ukurunduense</i> Trautv. et C. A. Mey. ?	candle-shape maple?	клён желтый?
		88	オガラバナまたはエゾイタヤ	<i>Acer ukurunduense</i> Trautv. et C. A. Mey. or <i>A. pictum</i> Thunb. subsp. <i>mono</i> (maxim.) H. Ohashi	candle-shape maple or yellow-paint maple	клён желтый или клён Майра
ミカン科	Rutaceae	89	キハダ	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr. var. <i>amurense</i>	Amur cork tree	бархат сахалинский
		90	ツルシキミ	<i>Skimmia japonica</i> Thunb. var. <i>intermedia</i> Komatsu f. <i>repens</i> (Nakai) Ohwi	Japanese skimmia	скиммия ползучая
		91	ツルシキミ?	<i>Skimmia japonica</i> Thunb. var. <i>intermedia</i> Komatsu f. <i>repens</i> (Nakai) Ohwi?	Japanese skimmia?	скиммия ползучая?
ジンショウゲ科	Thymelaeaceae	92	ナニワズ	<i>Daphne jezoensis</i> Maxim.	Daphne jezoensis	волчник хоккайдский
タデ科	Polygonaceae	93	ウラジロタデ	<i>Aconogonon weyrichii</i> (F. Schmidt) H. Hara var. <i>weyrichii</i>	Weyrich's knotweed	таран Вейриха
		94	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i> (F. Schmidt) Ronse Decr.	giant knotweed	рейноутрия сахалинская
		95	ギンギン属の1種	<i>Rumex</i> , sp.	a species of docks	щавель
ヒユ科	Amaranthaceae	96	ハマアカザ	<i>Atriplex subcordata</i> Kitag.	a species of saltbushes	лебеда почти-сердцевидная
ミズキ科	Cornaceae	97	カラフトミズキ	<i>Cornus alba</i> L.	Siberian dogwood	свидина белая
		98	エゾゴゼンタチバナ	<i>Cornus suecica</i> L.	bunchberry	дёрн шведский
アジサイ科	Hydrangeaceae	99	ツルアジサイ	<i>Calypttranthe petiolaris</i> (Siebold et Zucc.) H. Ohba et S. Akiyama	climbing hydrangea	гортензия черешчатая
		100	ノリウツギ	<i>Heteromalla paniculata</i> (Siebold) H. Ohba et S. Akiyama	panicled hydrangea	гортензия метельчатая
ハナシノブ科	Polemoniaceae	101	カラフトハナシノブ (広義)	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> (Regel) Koji Ito s. lat.	Jacob's-ladder	синюха рыхлоцветковая
マタタビ科	Actinidiaceae	102	ミヤママタタビ	<i>Actinidia kolomikta</i> (Maxim. et Rupr.) Maxim.	kolomikta	актинидия коломикта
ツツジ科	Ericaceae	103	クマコケモモ	<i>Arctostaphylos uva-ursi</i> (L.) Spreng.	Kinnikinnick	толокнянка обыкновенная
		104	ウラシマツツジ	<i>Arctous alpina</i> (L.) Nied.	bearberry	арктоус альпийский
		105	ガンコウラン (広義)	<i>Empetrum nigrum</i> L. s. lat.	crowberry	шикша сибирская
		106	ミネズオウ	<i>Loiseleuria procumbens</i> (L.) Desv.	alpine azalea	луазелеурия лежачая
		107	イソツツジ	<i>Rhododendron diversipilosum</i> (Nakai) Harmaja	Labrador tea	багульник
		108	クロウスゴ	<i>Vaccinium ovalifolium</i> Sm.	oval-leaf blueberry	черника паузшная
		109	ツルコケモモ	<i>Vaccinium oxycoccos</i> L.	small cranberry	клюква болотная
		110	ツルコケモモまたはヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium oxycoccos</i> L. or <i>Vaccinium microcarpum</i> (Turcz. ex Rupr.) Schmalh.	small cranberry or <i>Vaccinium microcarpum</i>	клюква болотная или клюква мелкоплодная
		111	イワツツジ	<i>Vaccinium praestans</i> Lamb.	Kamchatka bilberry	красника
		112	オオバスノキ	<i>Vaccinium smallii</i> A. Gray var. <i>smallii</i>	Small's blueberry	черника Смолла

水島未記ほか サハリンの民族植物学：現代の視点から見た『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』1

『Reisen』における記録 Record in Reisen						
学名 Latin name	アイヌ名 Ainu name	問宮のアイヌ名 Ainu name by Mamiya	ニヴフ名 Nivkh name	ウイльта名 Uilta name	備考の日本語訳 Remarks (in Japanese)	備考の英訳 Remarks (in English)
なし	ssussu				ヤナギ	Willow
Salix sp.			kuntr			
			merssi			
				túngde		
Salix verschied. Sp.			kuengi, merssi (Dui)		verschied: 「複数の」	verschied: various species
			kuntr (Tymi)			
				túngdo		
Geranium erianthum			tudam			
Rhus Toxicodendron	púngara, pungara*					
Acer Mono			njunjga			
Acer spicatum			tepkhai (Dui)			
			tschepkchai (Tymi), tschepkchai* (Tymi)			
Acer spicatum?			tebach			
Acer spicatum or A. mono	nisisteni, nisteni				Acer spicatumまたはA. mono、その樹皮は織物に(使われる)	Acer spicatum or A. mono, the bark is used for fabrics
	tobeni or nisisteni				2種のカエデ属に対するアイヌ語名はTobeniとNisisteniだが、どの種にどの名前が対応するのかについては確信が持てない。	the Ainu names for the two Acer species are Tobeni and Nisisteni, but I am uncertain which name belongs to which species
Phellodendron amurense	skiribeni	sikebeni				
Skimmia japonica	aiusskina					
Skimmia japonica?	etufkakina					
Daphne kamschatica			nyid nyks			
Polygonum Weyrichii			haps		茎が食べられる	The stem is eaten
			hapt*			
Polygonum sachalinense	iruri (若い芽)	irero (若い芽)			オオイタドリ若の食用の芽	the young edible shoots of Polygonum sachalinense
	tuchku				根を食用とする	the root [is] eaten
Rumex sp.	snaba, sunaba					
Atriplex patula			latitsch			
Cornus alba			pasing nyks			
Cornus suecica	ssekachka					
Hydrangea scandens	araitesma					
Hydrangea paniculata	kinneni					
	ssa (根茎)				アイヌが種管の雁首を作る Hydrangea paniculataの根茎	Rootstocks of Hydrangea paniculata, from which the Ainu make pipe heads
Palemonium caeruleum			kuglen wunt, kuglén wunt*			
Actinidia kolomikta	tsirekis					
			tschagmyss			
Arctostaphylos officinalis			karpt alss			
Arctostaphylos alpina			tutuisk alss			
Empetrum nigrum	kurasnóo	krasino			ベリーが食べられる	of which the berries are eaten
	kurasnóo*				「黒い果実」という意味	lit. black berry
			ygyg alss			
Loiseleuria procumbens			hakak, hákak*			
Ledum palustre			tykr			
Vaccinium ovalifolium	ekoton					
			ssumgi alss, tschumgi			
			tschumgi (Dui)			
			ssumgi (Tymi)			
Oxycoccus palustris	katám, katám*					
Oxycoccus			tym alss			
Vaccinium praestans	utschitschara, tschikaiba, tschikai-ba*					
Vaccinium Smallii			ogo alss, ogo alss			

科名 Family name in Japanese	科名学名 Family name in Latin	No.	和名 Japanese name	学名 Latin name	英名 English name	ロシア名 Russian name
		113	コケモモ	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> L.	lingonberry	брусника обыкновенная
アカネ科	Rubiaceae	114	ヤエムグラ属の1種	<i>Galium</i> sp.	a species of galiums	подмаренник
ムラサキ科	Boraginaceae	115	ハマベンケイソウ	<i>Mertensia maritima</i> (L.) Gray subsp. <i>asiatica</i> Takeda	oyster leaf	мертензия приморская
モクセイ科	Oleaceae	116	ヤチダモ	<i>Fraxinus mandshurica</i> Rupr.	Manchurian ash	ясень маньчжурский
		117	ミヤマイボタ (広義)	<i>Ligustrum tschonoskii</i> Decne.	a species of privets	бирючина хоккайдская
シソ科	Lamiaceae	118	ハッカ	<i>Mentha canadensis</i> L.	Canada mint	мята канадская
モチノキ科	Aquifoliaceae	119	ツルツグ	<i>Ilex rugosa</i> F. Schmidt var. <i>rugosa</i>	tsuru holly	падуб морщинистый
		120	ハイイヌツグ	<i>Ilex crenata</i> Thunb. var. <i>radicans</i> (Nakai) Murai	Japanese holly	падуб гопродчатый
キク科	Asteraceae	121	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i> (Regel) A. Gray	a species of mountain tobaccos	арника сахалинская
		122	ヨモギ属の1種	<i>Artemisia</i> sp.	a species of wormwoods	польнь
		123	アザミ属の1種 (チシマアザミまたはエゾノサワアザミ)	<i>Cirsium kamschaticum</i> Ledeb. ex DC. or <i>C. pectinellum</i> A. Gray	a species of plume thistles	бодяк камчатский или бодяк гребенчатый
		124	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i> Beauverd	a species of edelweiss	здесьейсе двуцветный
		125	オタカラコウ	<i>Ligularia fischeri</i> (Ledeb.) Turez.	gomchwi	бузльник Фишера
		126	ヨブスマソウ	<i>Parasenecio robustus</i> (Tolm.) Kadota	<i>Parasenecio robustus</i>	недоселка копьевидная
		127	アキタブキ	<i>Petasites japonicus</i> (Siebold et Zucc.) Maxim. var. <i>giganteus</i> G. Nicholson	giant butterbur	белокопытник широкий
		128	ハンゴンソウ	<i>Senecio cannabifolius</i> Less.	<i>Senecio cannabifolius</i>	крестовник конопелистный
		129	エゾオグルマ	<i>Senecio pseudoarnica</i> Less.	<i>Senecio pseudoarnica</i>	крестовник лжеарниковый
		130	カラフトヤマボクチ	<i>Synurus deltooides</i> (Aiton) Nakai	<i>Synurus deltooides</i>	сростнохвостник дельтовидный
ガマズミ科	Adoxaceae	131	レンブクソウ	<i>Adoxa moschatellina</i> L. var. <i>moschatellina</i>	moschatel	адокса мускусная
		132	エゾニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> L. subsp. <i>kamschatica</i> (E. L. Wolf) Hultén	red elderberry	бузина Микла
		133	カンボク	<i>Viburnum opulus</i> L. var. <i>sargentii</i> (Koehne) Takeda	guelder-rose	калина Саржента
		134	オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim.	forked viburnum	калина вильчатая
スイカズラ科	Caprifoliaceae	135	エゾヒョウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> L. subsp. <i>glehnii</i> (F. Schmidt) H. Hara	alpine honeysuckle	жимолость Глена
		136	ネムロブシダマ?	<i>Lonicera chrysantha</i> Turez. ex Ledeb.?	a species of honeysuckles	жимолость золотистая?
		137	チシマヒョウタンボク?	<i>Lonicera chamissoi</i> Bunge?	a species of honeysuckles	жимолость Шамиссо?
		138	ベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera maximowiczii</i> (Rupr.) Regel var. <i>sachalinensis</i> F. Schmidt	a species of honeysuckles	жимолость сахалинская
ウコギ科	Araliaceae	139	ウド	<i>Aralia cordata</i> Thunb.	spikenard	аралия сердцевидная
		140	タラノキ	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seem.	Japanese angelica tree	аралия высокая
		141	エゾウコギ	<i>Eleutherococcus senticosus</i> (Rupr. et Maxim.) Maxim.	Siberian ginseng	элеутерококк колючий
		142	ハリギリ	<i>Kalopanax septemlobus</i> (Thunb.) Koidz.	castor aralia	калопанакс семиллопастной
セリ科	Apiaceae	143	エゾニユウ	<i>Angelica ursina</i> (Rupr.) Maxim.	ezo angelica	лудник медвежий
		144	シャク	<i>Anthriscus sylvestris</i> (L.) Hoffm.	cow parsley	купьяр лесной
		145	エゾノシシウド	<i>Coelopleurum gmelini</i> (DC.) Ledeb.	seacoast angelica	лудник Гмелина

水島未記ほか サハリンの民族植物学：現代の視点から見た『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』1

『Reisen』における記録 Record in Reisen						
学名 Latin name	アイヌ名 Ainu name	間宮のアイヌ名 Ainu name by Mamiya	ニヴフ名 Nivkh name	ウイльта名 Uilta name	備考の日本語訳 Remarks (in Japanese)	備考の英訳 Remarks (in English)
Vaccinium Vitis Idaea	enonocha, enónocha*	inonoka				
			mygr alss			
			pagla alss		翻訳すると「赤い果実」という意味	Translation: red berries
				sseduchó		
Galium sp.	ssusukina				胸の痛みに対して（使われる）	for chest pain
Mertensia maritima			ein tux			
Fraxinus mandschurica	itatus					
	tawi					
			tawwi			
			pölo (Amur)			
		chársch (Du?)				
Ligustrum Ibota	ainani					
Mentha sp.	kamuikena, kamui kena*					
Ilex rugosa	tammirehe, tammi-rehe*				その果実は歯痛に対して（使われる）	the berries for toothache
			pagla karpt alss			
Ilex crenata	techamus, téchamus*					
Arnica Chamissonis	entokokirui					
Artemisia vulgaris	noio, noió*					
Cirsium Weyrichi			atاتف			
Leontopodium	noija					
Ligularia sibirica			kumbi			
Cacalia hastata			issi			
Petasites japonicus			kasik, kaftschik			
			löllu (若芽)		フキの若芽（食用とする）	young shoots of Petasites japonicus ([they are] eaten)
			tol-achs (葉柄), tolachs* (葉柄)		フキの葉柄（食用とする）	Leaf stalks of Petasites japonicus ([they are] Eaten)
Senecio palmatus			yio			
Senecio Pseudoarnica			kengss, kengssi		煮た茎を食用とする	The cooked stems are eaten
Rhaponticum atriplicifolium			örplang, ör plang*			
Adoxa moschatellina			tschjuk			
Sambucus racemosa	ossókoni, ossokoni*					
			khongi			
Viburnum opulus			metsch, tschemmetsch, pe-wan			
Viburnum plicatum	habetuni					
Lonicera Glehni	kasserochtani					
			mauk-tam			
Lonicera chrysantha?			chágrs-tam			
Lonicera Chamissoi?			tschung			
Lonicera Maximowiczii	ussuni					
Aralia racemosa	ebussaki, ebbussaki*				食用	edible
Dimorphanthus mandschurica	ssewachni					
Eleutherococcus	ebussaki					
			pebang alss			
Panax ricinifolia	aussni					
Angelophyllum ursinum	porochoto					
			lumpit kan			
			tuyng			
Anthriscus nemorosa			betech			
Coelopleurum Gmelini			pisskr		薬を化膿した患部に貼る	The leaves [are] applied on carbuncles

科名 Family name in Japanese	科名学名 Family name in Latin	No.	和名 Japanese name	学名 Latin name	英名 English name	ロシア名 Russian name
		146	オオハナウド	<i>Heraclium sphondylium</i> L. subsp. <i>mountanum</i> (Schleich. ex Gaudin) Briq.	common hogweed	борщеник шерстистый
		147	カワラボウフウ	<i>Peucedanum terebinthaceum</i> (Fisch. ex Trevir.) Fisch.	Peucedanum terebinthaceum	китагавия терпентиновая
		148	オオカサモチ	<i>Pleurospermum uralense</i> Hoffm.	Pleurospermum uralense	реброплодник уральский
		149	不明	不明		
		150	不明	不明		
		151	不明	不明		
		152	不明	不明		
		153	不明	不明		
		154	不明	不明		
		155	不明	不明		
		156	不明	不明		
		157	不明	不明		
		158	不明	不明		
		159	不明	不明		
		160	不明	不明		
		161	不明	不明		
		162	不明	不明		
		163	不明	不明		
		164	不明	不明		
		165	不明	不明		
		166	不明	不明		
		167	不明	不明		
		168	不明	不明		
		169	不明	不明		
		170	不明	不明		
		171	不明	不明		
		172	不明	不明		
		173	不明	不明		
		174	不明	不明		
		175	不明	不明		
		176	不明	不明		
		177	不明	不明		
		178	不明	不明		
		179	不明	不明		
		180	不明	不明		
		181	不明	不明		
		182	不明	不明		
		183	不明	不明		
		184	不明	不明		

水島未記ほか サハリンの民族植物学：現代の視点から見た『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』1

『Reisen』における記録 Record in Reisen						
学名 Latin name	アイヌ名 Ainu name	間宮のアイヌ名 Ainu name by Mamiya	ニヴフ名 Nivkh name	ウイльта名 Uilta name	備考の日本語訳 Remarks (in Japanese)	備考の英訳 Remarks (in English)
Heracleum barbatum			pyss, pyiss, tmyss			
			nukr		Heracleumの葉柄(皮を剥いて煮て[食用とした])	the leaf stalks of Heracleum (were peeled and cooked)
			nukr		nukrは皮を剥いた葉柄で、食用として保存される	nukr the peeled leaf stalks preserved for food
Pencedanum terebinthaceum	itsarikissma, itsarikisma*					
Pleurospermum kamschaticum	isachkina					
			kalngi, kengda		打撲時に患部に当てる	Applied to bruises
なし	achni				その樹皮から鞣皮が作られる木	a tree from whose bark bast is made
なし	achturi				食用の根	an edible root
なし	anekani				ベリー	a berry
なし		futorp			食用の根	edible root
なし		go			食用の根	edible root
なし	hach				食用の根	edible root
なし		homessu			食用の根	edible root
なし	janani				日本人がお茶として使う草(日本語で「schischu」)	an herb used by the Japanese for tea (Japanese: schischu)
なし		jekina			食用の根の一つ	an edible root
なし	ikéma				薬効のある根で、根莖でも知られており、シーボルトによればガガイモ科のUrostelma属の一種。あるいはカモメヅル属Vincetoxicumの一種	a medicinal root, also known in Yesso, according to Siebold a species of the Asclepiadaceae genus Urostelma. Perhaps Vincetoxicum sp.
なし		imauri			食用の根の一つ	an edible root
なし		itsjarib			食用の根の一つ	an edible root
なし		karube			食用の根の一つ	an edible root
なし	mun				様々な種類の細かい草で、防寒のために乾燥させて履物に詰められる	fine grass of various types, which is placed dry in footwear to protect against the cold
なし	ninu ni				クルミの木。その果実(現地語でninu)が海岸に打ち上げられている	Walnut tree, the fruits ninu [were] thrown out by the sea
なし	pebeni				ポロコタンにある木	a tree near Porokotan
なし		raussi			食用の根	edible root
なし	ssinkaf				ポロコタンの未同定の木	unknown tree from Porokotan
なし	ssirakuts				南方産の大きな果実をつけるPyrus属の一種(グレーンによる)	a large-fruited Pyrus species from the south (Glehn)
なし		sitrukina			食用の根	edible root
なし	tipókosso				日本人によって薬として重宝される根	a root valued by the Japanese as medicine
なし	tóbeni				2種のカエデのうちの1つ	one of the two Acer species
なし	tokoki				ヨシ属またはハマニクで、蓆を編むのに(使われる)	Calamagrostis or Elymus mollis, used for mat weaving
なし		tara, taro, takuru, tarawo, taromosi, taroru, taroka, tsimakina, tsimata, tortsup, tsikuptoma, tskuirakkup, tsikikesi, tsukutorreo			これらもまた、間宮による食用の根の名称	also Mamiya names of edible roots
なし		unisiko, unechan			間宮によれば食用の根	edible root according to Mamiya
なし	wirakai				食用の根の一つ	an edible root
なし			erngi alss		未同定の果実(ベリー)	an unidentified berry
なし			kakobi alss		未知のベリー	an unknown berry
なし			kmyrsch alss		未同定のベリー	an unidentified berry
なし			njägr alss		未同定のベリー	unidentified berry
なし			pebex		トゥミ産の未知の低木または樹木	unknown shrub or tree from Tymi
なし			piola alss		未同定の果実(「青い果実」の意味)	unidentified berry (Translation: blue berry)
なし			tschollach		食用の海藻	an edible seaweed
なし			tschwellach		煮て食用とする樹上地衣(サルオガセ属か?)	unidea tree lichen (Usnea?), which is cooked and eaten
なし			tschadi alss		未同定のベリー	unidentified berry
なし			tukkos		トゥミ産の未知の低木	unknown shrub from Tymi

# Ethnobotany on Sakhalin: *Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin* from a Modern Perspective 1 Indigenous Plant Names Reported by F. Schmidt

MIZUSHIMA Miki, SHIRAIISHI Hidetoshi, TANGIKU Itsuji, YAMADA Yoshiko,  
and Martijn KNAPEN

## 1. Introduction

Among the authors, Mizushima specializes on the ethnobotany of the indigenous peoples in Northeast Asia, analyzing their culture from a botanical perspective. Research on the indigenous peoples of northern Sakhalin and the Lower Amur River region has been performed with the linguists Shiraishi, Tangiku and others. This involves documenting plant names, the culture of plant resource use, and associated vocabulary (Mizushima et al. 2007, etc.). The research aimed to analyze the relationship between the culture of plant resource use and the natural environment (flora and vegetation) where these people live (Mizushima et al. 2017).

*Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin* [Travels in the Amur Region and on Sakhalin Island] (Schmidt 1868, hereafter *Reisen*) is a pioneering study on the flora of the Amur River basin and Sakhalin Island. This publication was a product of the Great Siberian Expedition organized by the Imperial Geographical Society of Russia, led by the geologist and botanist Friedrich Schmidt. The scientific achievements of *Reisen* are well known in the field of botany, and the botanical findings recorded therein remain an important foundation for studying the flora of this region even today.

While *Reisen*'s scientific achievements in botany have hitherto been well known, less attention has been paid to its wealth of findings in ethnobotany, i.e., the botanical knowledge of the people who made use of the plants. *Reisen* contains records of plant names in the three indigenous languages of Sakhalin, namely Ainu, Nivkh and Uilta, as well as descriptions of plant use by these peoples. In this article, we shed light on this aspect of *Reisen*. By analyzing the botanical knowledge of these peoples in the mid-nineteenth century, we may get a picture of their interaction, thereby contributing to research on the relationship between the culture of plant resource use

and the natural environment. In addition, by comparing plant names from the mid-nineteenth century with current names, and by analyzing the borrowing relationships between these names, we may obtain insights into these languages, for which only a limited amount of old records exist.

Since the rich ethnobotanical information in *Reisen* allows for various scientific outputs, the current research project is designed to be multi-disciplinary — each author provides an analysis on their own field of interest. Ultimately, we aim to link our study to related studies on neighboring languages to investigate the homeland and migration history of each ethnic group.

This article represents the first part of our research project. We first sketch the historical background of the Great Siberian Expedition and bibliographic information regarding *Reisen*. We then provide a list of plants recorded with indigenous names in *Reisen*, reidentified in the framework of modern scientific names and taxonomy.

## 2. The Great Siberian Expedition

### (1) Historical background

In the mid-nineteenth century, Russia's interest in the Asiatic Far East was growing in both social and political terms. Within Russia, criticism of the repressive regime of Nicholas I (1825–1855) and his constant interference in European politics led to the development of a reformative nationalist sentiment to “break with the West” and turn to the East (Tiuchev 1913, cited in Bassin 1983: 241). This sentiment was associated with the Pan-Slavic movement of the time, which emphasized Russia's messianic role in Asia as a “bearer of civilization and enlightenment” (Bassin 1983). The foundation of the Geographical Society of Russia in 1845 was a response to this nationalist sentiment from academia, emphasizing its commitment to

MIZUSHIMA Miki: Natural History Group, Research Division, Hokkaido Museum  
SHIRAIISHI Hidetoshi: Faculty of Economics and Business Administration, Sapporo Gakuin University  
TANGIKU Itsuji: Center for Ainu and Indigenous Studies, Hokkaido University  
YAMADA Yoshiko: College of Liberal Arts, Muroran Institute of Technology  
Martijn KNAPEN: Language and the Anthropocene, Max Planck Institute of Geoanthropology

servicing specifically Russian and Slavic interests rather than scholarship for humanity as a whole (Bassin 1983).

The political situation in East Asia was also of great concern to Russia. The invasion of China by Western European powers during the Opium Wars (1840–1842, 1856–1860) and the growing presence of the USA in the Pacific were regarded as a threat to Russia’s Siberian territories. Annexation of the Amur region and Sakhalin was intended as a means to bolster Russia’s position in the Far East (Stephan 1971, Bassin 1983, Forsyth 1992) and to secure a supply route to the fur colonies in Siberia, thereby benefiting Russia’s commercial interests in China and North America (Bassin 1983).

It was against this social and political background that the Imperial Geographical Society of Russia decided to send a scientific expedition to Northeast Asia.<sup>(1)</sup> This Great Siberian Expedition was “the largest and most elaborate expedition to Siberia in the nineteenth century” (Bassin 1983: 240), covering a geographic area stretching from the southern part of Siberia east of Lake Baikal, including the Amur region and Sakhalin (Bassin 1983). The expedition was expected to gather information on the physical geography, flora, and fauna of these regions to meet the above-mentioned demands of the Russian nation and society.

## (2) Overview of the Expedition

The expedition consisted of two sections. The mathematical section (1855–1858) aimed at collecting astronomical and topographical data, and the physical section (1860–1862),

covering geological, zoological and botanical studies. The latter was led by Friedrich Schmidt (1832–1908, Russian name Фёдор Богданович ШМИДТ), a geologist and botanist of Baltic German origin.<sup>(2)</sup> The Primorye Branch of the Russian Geographical Society (2020) sketches Schmidt’s expedition as follows. After leaving St. Petersburg in May 1859 (on the Julian calendar, the same applies hereafter), Schmidt wintered in Blagoveshchensk, a city in the Upper Amur region. In May 1860, he crossed the Tartar Strait and arrived at Dui on the west coast of Sakhalin, where he started his fieldwork.<sup>(3)</sup> In June, the ethnographer A.D. Brylkin and topographical surveyor G. V. Shebunin arrived at Dui and joined Schmidt in his fieldwork on the west coast of the island, down to Kussunnai in the south.<sup>(4)</sup> In February 1861, Schmidt and Shebunin returned to Dui via the mouth of the River Poronai on the east coast. Back in Dui, Schmidt met with P. von Glehn, who had been investigating the flora to the north of Dui. They went to Nikolaevsk in February 1861. During that winter, Schmidt sent Glehn to northern Sakhalin for fieldwork. In June, Schmidt went to Dui and met with his colleagues Glehn, Brylkin and Shebunin. It was decided there that Glehn and Brylkin would continue fieldwork in southern Sakhalin, while Schmidt and Shebunin would travel to the Amur region. In October, Schmidt and Shebunin returned to Nikolaevsk. In January 1862, Schmidt made his final visit to Sakhalin. In March, all the four members of the expedition returned to Nikolaevsk, and after some fieldwork in the Amgun River region, they returned to St. Petersburg in January 1863.

Table 1. Overview of fieldwork by Schmidt and Glehn

Year	Month	Schmidt	Glehn
1859	May	Departure from St. Petersburg	
1860	March		Departure from St. Petersburg
	May	Arrival in Sakhalin	
	June	Fieldwork in Sakhalin	Arrival in Sakhalin
			Fieldwork in northern Sakhalin
1861	February	Arrival in Dui	Meeting with Schmidt
	February	Arrival in Nikolaevsk	
	Winter	Fieldwork in Amur	Fieldwork in northern Sakhalin
	June	Arrival in Dui	Fieldwork in southern Sakhalin
	July	Fieldwork in Primorye	Fieldwork in southern Sakhalin
	October	Arrival in Nikolaevsk	
1862	January	Fieldwork in Sakhalin	
	March	Meeting with Glehn	Arrival in Nikolaevsk
	September	Departure from Nikolaevsk	
1863	January	Arrival in St. Petersburg	

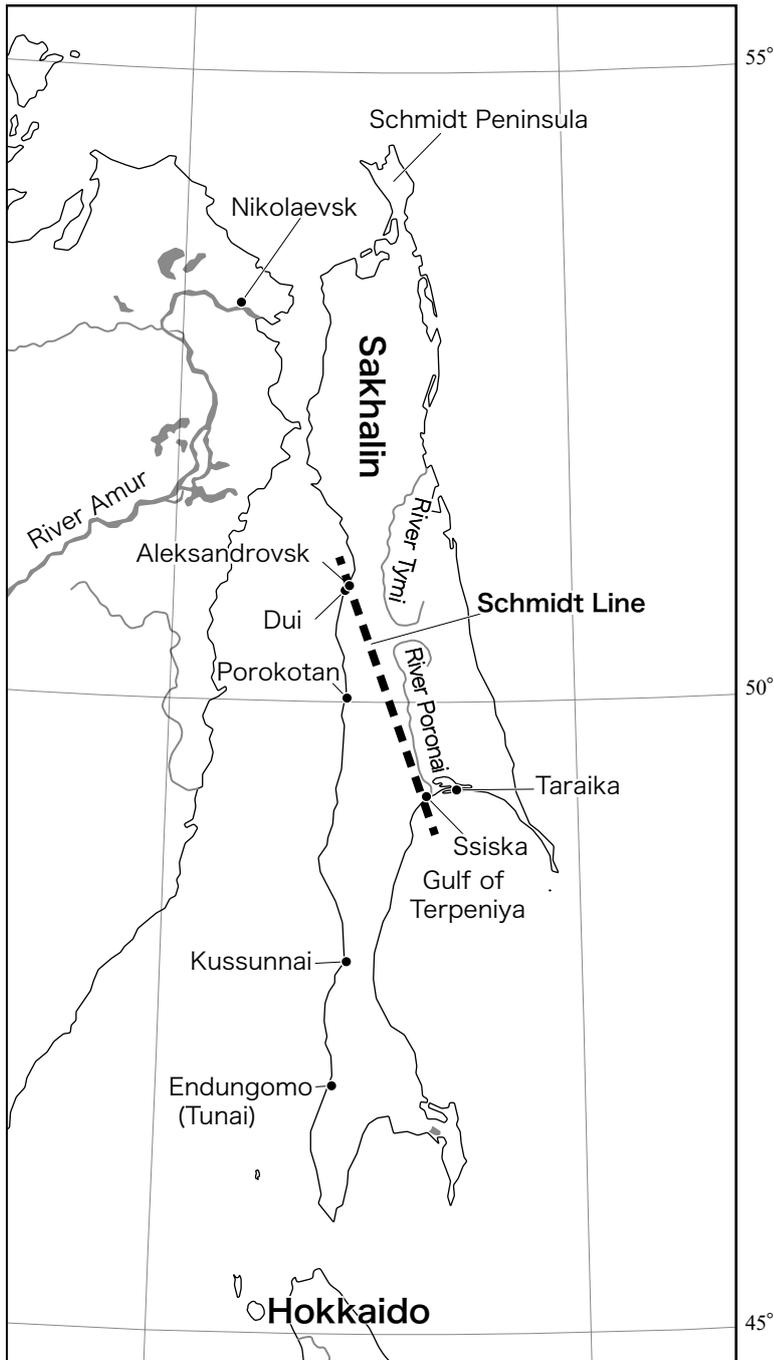


Figure 1. Place names in the current article

Besides *Reisen*, the expedition yielded numerous publications on the flora of the Amur region and Sakhalin, including Schmidt and von Glehn (1868), Schmidt, Glehn and Brylkin (1868), Schmidt (1873), and Schmidt (1874).

### 3. On *Reisen*

*Reisen* appeared in 1868, five years after Schmidt's return from the expedition. It consists of two parts, Part one, "Florula

Amguno-Burejensis" on the geography, climate and flora in the Amgun River valley in the Upper Amur region and Part two, "Flora Sachalinensis" on Sakhalin. In the latter, Schmidt refers to one of his findings – the division of the flora of Sakhalin into northeastern and southwestern areas. The Japanese botanist Yushun Kudo identified this border as running from Aleksandrovs to the Gulf of Terpeniya and proposed calling it the *Schmidtsche Linie* 'Schmidt Line' (Kudo 1927). Since then, the Schmidt Line has been further elaborated on by botanists that

followed (e.g. Miyabe and Tatewaki 1937, Pietsch et al. 2012).

The description of the flora, which forms the main content of *Reisen*, contains detailed descriptions of the plants which Schmidt and his colleagues recorded in their fieldwork. For Sakhalin, there are 589 vascular plants listed, of which forty were newly named by Schmidt (Takahashi 2024: 81). A subset of the species are recorded with indigenous names and a description of their use.

The final part of *Reisen* contains lists of plant names in the three indigenous languages of Sakhalin, which is the main fo-

cus of the current study (Figure 2). It is not clear why Schmidt and his colleagues decided to record and report ethnobotanical information in addition to botanical information. Nevertheless, the information is valuable, since there are only a few records of indigenous languages available from this period. Analyzing this information from a modern perspective can be expected to provide novel insights.

There are four lists of indigenous names — three lists of names in the individual languages, namely Ainu (“Aino”, p.210–212), Nivkh (“Giläken”, p.212–214) and Uilta (“Oro-

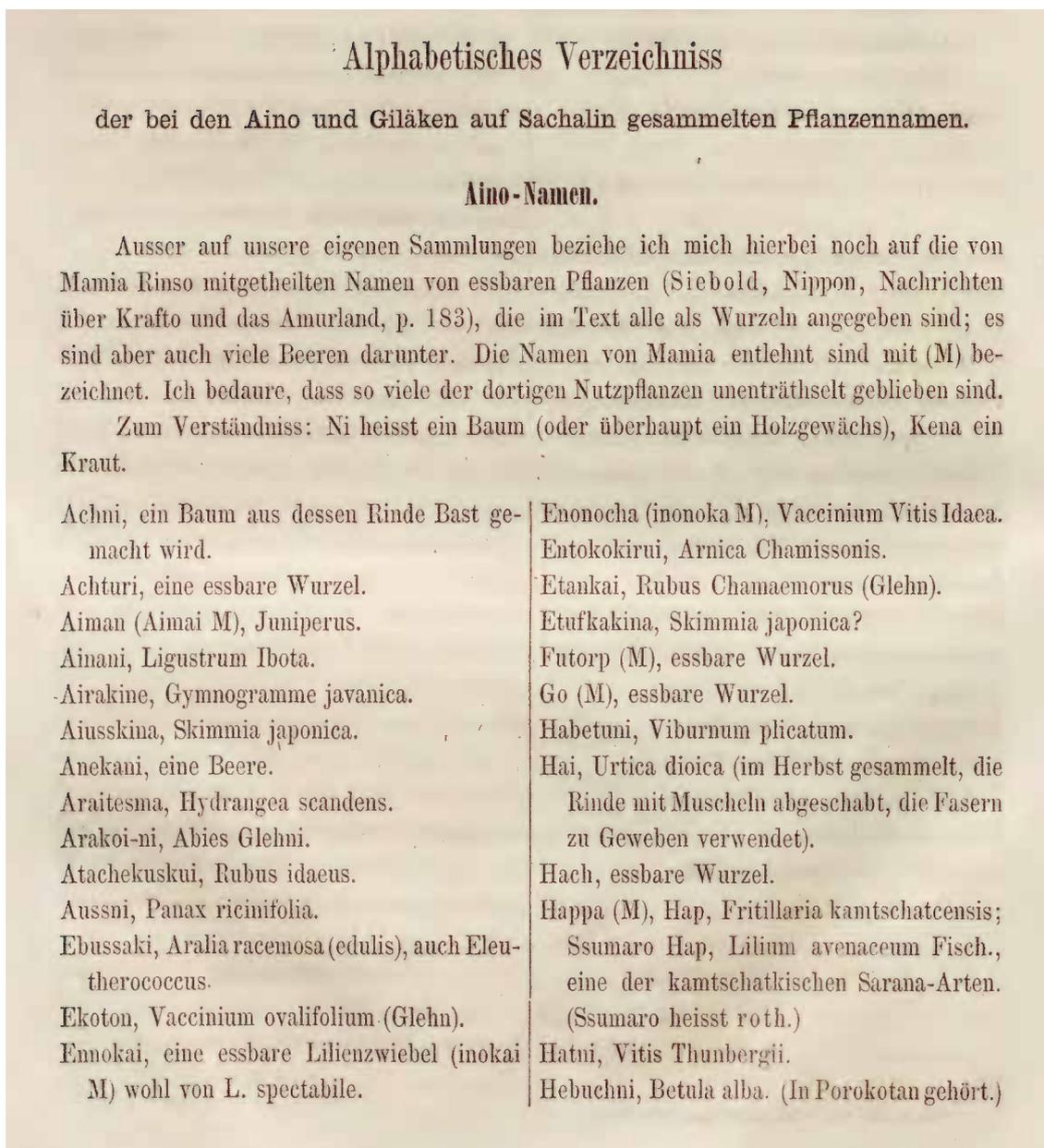


Figure 2. Indigenous plant name list in *Reisen* (part)

Figure 2 illustrates the top page of Ainu (Aino) plant name list (p.210). Ainu names are alphabetically ordered, followed by a scientific name, e.g. “Aiman” (third item in the left column) is an Ainu name recorded by Schmidt and his colleagues, “Aimai (M)” a name recorded by Rinzo Mamiya, and “Juniperus” a scientific name of the plant which these names refer to (the genus *Juniperus*).

ken”, p.214). The names are ordered alphabetically (in German), having 111 entries in Ainu, 122 in Nivkh and 11 in Uilta, respectively. The fourth list is a combined list of the three language lists containing 131 entries ordered according to the botanical taxonomy (p.215–217).

In transcribing the indigenous names, Schmidt followed the transcription of the Russian (Baltic German) botanist Maximowicz (1859), who recorded indigenous plant names in the Amur River basin, based on German orthography, e.g. “Wach” for [βax] ‘moss’.<sup>(5)</sup> These names are in the dialects of Kussunai and Endungomo for Ainu, and Dui for Nivkh, unless otherwise mentioned (Schmidt 1868: 215). The Uilta names were recorded in Ssiska. In the list, some Ainu plant names have an additional name cited from *Nippon* by Siebold (1832), as recorded by the Japanese explorer Rinzo Mamiya. These names are marked with an “M”, e.g. “Aiman (Aimai M), Juniperus”.

#### 4. Plant names in *Reisen*

In the current project we reidentified the scientific names of plants with an indigenous name in *Reisen* based on modern taxonomy. Schmidt lists most of the plants in *Reisen* with a scientific name. While scientific names are supposed to be universal by definition, in practice there is deviation — researchers may use different scientific names according to their own interpretation. Also, with the progress of research, scientific names may change over time. Thus, there can be more than one scientific name for a single plant species. However, under the current Code of Nomenclature only one name can be the “correct name” (JSPS ICN Translation Committee (ed.), 2019). While some of the plant names (scientific names) in *Reisen* are still accepted as “correct names”, others are not. In such cases, it was necessary to reidentify which modern species Schmidt’s scientific names correspond to. In addition, several species in *Reisen* are clearly not present on Sakhalin, so it is highly probable that these were wrongly identified. For such species, we identified the correct names by consulting “Environmental Survey and Assessment Manual: Higher Plants of Hokkaido” (Ito et al. 1987; Ito et al. 1990, 1994) and the YList (Yonekura & Kajita 2003) as main sources. The result of our reidentification is shown in Table 2. The left half of Table 2 consists of information based on modern botanical taxonomy. For the identification of Japanese names, scientific names and taxonomic systems, we mainly consulted “Wild Plants of Japan, Revised Edition, Vols. 1–5” (Ohashi et al. 2015–2017) for seed plants and occasionally the YList and Takahashi (2024). Within each

family, species are alphabetically ordered by scientific names. For ease of reference, the table contains English and Russian names. The latter is based on Smirnov (2002).

The right half of the table consists of information from the indigenous name lists in *Reisen*. These are, from left to right: scientific name by Schmidt, Ainu name, Ainu name by Mamiya, Nivkh name and Uilta name, respectively. Information on plant use and/or etymology (meaning) reported in *Reisen* is given in Remarks. The capital letters in the plant names of the individual language lists (Fig. 2) are transcribed as lower-case letters in Table 2.

For those plants where only a genus (or higher taxon) is referred to and no species identified, we classified them as follows. Plants with sp. are referred to as a species in that taxon without further identification of the species (e.g. *Carex* sp. is a species of *Carex*). Plants without sp. are referred to as a taxon (e.g. *Lycopodium* refers to the genus as a whole). An exception is *Salix* sp., for which identification is difficult. Here it has been classified as containing several species. Identification of species was easier for those plants that were the only species of their genus occurring on Sakhalin.

In total we succeeded in identifying 148 entries for vascular plants: 54 families, 104 genera, and 125 species (including those species noted with “?” in *Reisen*).

The indigenous names are taken from the individual language lists and the combined list in *Reisen*. In case of any discrepancy in spelling, we marked the name in the latter with an asterisk (\*). The individual language lists occasionally contain descriptions (uses and characteristics) of plants for which no species (scientific name) is given. These descriptions are given at the end of the table. An index of Japanese, English, Russian, Ainu, Nivkh, and Uilta names is appended at the end of this article.

#### 5. Conclusion

Since the ethnobotanical records in *Reisen* introduced above have so far been left largely unstudied, we would like to conclude this article by highlighting some topics for future research. As research on the names of plants and their utilization by contemporary speakers of the indigenous languages of Sakhalin is still in progress, various insights may be obtained by comparing such contemporary data with those in *Reisen*. The indigenous languages of Sakhalin are no longer used in daily communication, and it is often the case that contemporary speakers do not remember plant names in their own language.

The records in *Reisen* serve not only to complement such information, but may also reveal which plant names tend to be lost or retained, thereby enabling us to study the background of such differences.

Alternatively, one may attempt to compare the few old records of plant names in the indigenous languages of Sakhalin and the surrounding area from the same period as *Reisen*. For example, Maximowicz's *Primitiae Florae Amurensis* (1859) contains plant names in Nivkh and the Tungusic languages from the Amur River basin. Comparing these names with those in *Reisen* may provide insights into the borrowing relationships among these languages and linguistic geography. These insights will aid reconstruction of the migration history of the indigenous peoples of Sakhalin using historical linguistic methods, which can be compared against recent findings in Northeast Asian archaeology and archaeobotany.

It should be noted, however, that plant names recorded in the same period as *Reisen* lack linguistic accuracy — it was not until the twentieth century that the phonological systems of the languages in this region were thoroughly investigated by trained linguists. In the next part of this article, we shall attempt to provide linguistically accurate material for the reconstruction of indigenous names obtained from contemporary speakers and insights from historical linguistics.

Although old records of the indigenous languages of Sakhalin are few, the existing records are of high scientific value, as we have attempted to show in this article, indicating that this is a promising area for future research.

## Acknowledgements

This research has been financially supported by JSPS KAKENHI (JP19K01240). We would like to thank Dr. NAKAMURA Koh of the Botanic Garden, Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University for his bibliographical aid.

## Notes

- (1) “Imperial” was later added to the name of the Society (Bassin: 1983: 243).
- (2) Friedrich Schmidt was born in Kaisma, a village in the Governorate of Livonia (currently part of Latvia and Estonia). In 1855, he received his master's degree in geology from the Imperial University of Dorpat (old German name of the University of Tartu) (Baltische Historische Kommission 2024). The Schmidt Peninsula on the northern tip of Sakhalin was named after him.
- (3) Place names in Sakhalin follow the spelling in *Reisen*.
- (4) When Schmidt and his colleagues arrived in Tunai in the August of 1860, Japanese officials prevented them from conducting fieldwork south of that point. The southern part of Sakhalin was

occupied by the Japanese, and therefore de facto Japanese territory, even though it had been decided in the Treaty of Shimoda (1855) to leave the island without a border between Russia and Japan. Schmidt did not give up, and negotiated with the Japanese authorities through the Russian Consulate in Hakodate. This was successful, and Glehn and Brylkin were able to continue their fieldwork in the southern part of Sakhalin in the summer of 1861 (Akizuki 1994).

- (5) “The names are written according to the German pronunciation with the closest possible approximation to the original sound. The *s* must be spoken softly, *ng* through the nose as in French, *sh* has been set for the French *j* or the Russian *ж*.” (Maximowicz 1859: 497, translated from German by the authors).

## References

- Akizuki, T., 1994, *Nichirokankei to Saharin too* [Japanese-Russian relationship and Sakhalin]. Chikumashoboo, Tokyo. (in Japanese)
- Baltische Historische Kommission, 2024, Schmidt, Friedrich Karl (1832-1908), *Baltisches Biografisches Lexikon digital*. Accessed October 2024. <https://bbld.de/0000000083814552>
- Bassin, M., 1983, The Russian Geographical Society, the “Amur Epoch,” and the Great Siberian Expedition 1855-1863. *Annals of the Association of American Geographers* 73 (2): 240–256.
- Forsyth, J., 1992, *A history of the peoples of Siberia*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Ito, K., Hinoma, A. and Nakai, H. (eds.), 1990, *Check List of Higher Plants in HOKKAIDO II MONOCOTYLEDONEAE*. Takugin Research Institute, Sapporo. (in Japanese)
- Ito, K., Hinoma, A. and Nakai, H. (eds.), 1994, *Check List of Higher Plants in HOKKAIDO III CHORIPETALAE*. Takugin Research Institute, Sapporo. (in Japanese)
- Ito, K., Hinoma, A. and Takugin Research Institute (eds.), 1987, *Check List of Higher Plants in HOKKAIDO IV SYMPETALAE*. Takugin Research Institute, Sapporo. (in Japanese)
- JSPS ICN Translation Committee (ed.), 2019, *International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants (Shenzhen Code) Japanese Edition*. Hokuryukan, Tokyo.
- Kudo, Y., 1927, Über die Pflanzengeographie Nordjapans (die Inseln Kurilen eingeschlossen) und der Insel Sachalin [On the botanical geography in northern Japan (the Kuril Islands included) and the Sakhalin Island]. *Österreichische Botanische Zeitschrift* 76: 306–311. (in German)
- Maximowicz, C., 1859, *Primitiae florae Amurensis* (Flora of the Amur region). Buchdruckerei der kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, St. Petersburg. (in German)
- Miyabe, K. and Tatewaki, M. 1937. On the significance of the Schmidt line in the plant distribution in Saghalien. *Proceedings of the Imperial Academy* 13: 24-26.
- Mizushima, M., Shiraishi, H. and Tangiku, I., 2007, Nivkh Plant Names (East-Sakhalin Dialect). *Bulletin of the Historical Museum of Hokkaido* 35: 1-10. (in Japanese)
- Mizushima, M., Shiraishi, H. and Tangiku, I., 2017, Plant Resources Utilization by the Nivkh from the Point of View of the Influence from Flora and Vegetation of Sakhalin. *Bulletin of Hokkaido Museum* 2: 1-14. (in Japanese)
- Ohashi, H., Kadota, Y., Murata, J., Yonekura, K. and Kihara, H., 2015-2017. *Wild Flowers of Japan 1-5*. Heibonsha, Tokyo. (in Japanese)

- Pietsch, T. and 22 others. 2012. Biodiversity and biogeography of Sakhalin island. In B. B. Богатов, B. Ю. Баркалов, A. С. Лелей, E. А. Макаренченко, С. Ю. Стороженко (eds.) *Flora and fauna of North-West Pacific islands* (Materials of International Kuril Island and International Sakhalin Island Projects) 11-78. Chap- Publisher: Dalnauka: Vladivostok.
- Primorye Branch of the Russian Geographical Society, 2020, *От Географического общества* [From the Geographical Society]. Accessed October 2024. <https://oiaк.рф/ot-geograficheskogo-obshchestva> (in Russian)
- Schmidt, F., 1868, *Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin, im Auftrage der Kaiserlich-Russischen Geographischen Gesellschaft Ausgefuehrt. Botanischer Theil* [Travels in the Amur Region and on Sakhalin Island] Mémoires de l'Academie Impériale des Sciences de St. Pétersbourg, VIIIe Serie, Tome XII, No.2. (in German)
- Schmidt, F., 1873, Окаменелости меловой формации с острова Сахалина [Fossils of the Cretaceous formation from Sakhalin Island], *Труды сибирской экспедиции Императорского русского географического общества. Физический отдел*. Т. 3. вып. 1. СПб. (in Russian)
- Schmidt, F., 1874, Ботаническая часть [Botanical part], *Труды сибирской экспедиции Императорского русского географического общества. Физический отдел*. Т. 2. СПб. (in Russian)
- Schmidt, F., and von Glehn, P., 1868, *Труды сибирской экспедиции Императорского русского географического общества* [Proceedings of the Siberian expedition of the Imperial Russian Geographical Society]. Физический отдел. Т. 1. Исторические отчёты. СПб. (in Russian)
- Schmidt, F., von Glehn, P., and Brylkin, A., 1868, *Reisen im Gebiete des Amurstromes und auf der Insel Sachalin* [Traveling in the area of the Amur River and on the island of Sakhalin]. In the series *Beiträge zur Kenntniss des Russischen Reiches*. Bd. 25. St. Petersburg: Keiserliche Akademie der Wissenschaft. (in German)
- von Siebold, P., 1832, *Nippon: Archiv zur Beschreibung von Japan* [Nippon: Archive of a description of Japan]. C. C. van der Hoek, Leyden. (in German)
- Smirnov, A. A., 2002. *Распространение сосудистых растений на острове Сахалин*. [Distribution of vascular plants on Sakhalin Island]. Институт морской геологии и геофизики Дальневосточное отделение РАН, Южно-Сахалинск. (in Russian)
- Stephan, J., 1971, *Sakhalin: A history*. Clarendon press, Oxford.
- Takahashi, H., 2024, *Plants of Sakhalin island*. Hokkaido University Press, Sapporo. (in Japanese)
- Tiuchev, F., 1913, *Россия и Германия* [Russia and Germany] (in Russian) [written in 1844]. Полное собрание сочинений Ф. И. Тютчева, ed. П. В. Быков. 279–295. Издание Т-ва А. Ф. Маркс, СПб. (in Russian)
- Yonekura, K. and Kajita, T., 2003-. *BG Plants: Japanese Name - Scientific Name Index (YList)*. Accessed October 2024. <http://ylist.info>

## 索引 (数字は表2の項目番号) Indexes (numerals are item numbers in Table 2)

## 和名 Japanese name

アカエゾマツ	13
アキタブキ	127
アザミ属	123
イツツツジ	107
イチイ	17
イワガネゼンマイ	9
イワツツジ	111
ウド	139
ウラシマツツジ	104
ウラジロタデ	93
エゾイタヤ	85, 88
エゾイラクサ	68
エゾウコギ	141
エゾウスユキソウ	124
エゾエンゴサク	39
エゾオグルマ	129
エゾキイチゴ (エゾイチゴ)	59
エゾゴゼンタチバナ	98
エゾスカシユリ	23
エゾスグリ	45
エゾニュウ	143
エゾニワトコ	132
エゾノウワミズザクラ	52
エゾノサワアザミ	123
エゾノシシウド	145
エゾノリュウキンカ	42
エゾヒョウタンボク	135
エゾマツ	12
エゾミヤマハンショウヅル	43
オオアマドコロ	32
オオイタドリ	94
オオウサギギク	121
オオカサスゲ	33
オオカサモチ	148
オオカメノキ	134
オオバサンザシ	51
オオバスノキ	112
オオハナウド	146
オオバナノエンレイソウ	20
オオヤマザクラ	50
オガラバナ	86, 87, 88
オクエゾサイシン	18
オタカラコウ	125
オニシモツケ	49
オノエヤナギ	81
オヒョウ	65, 66
カラフトイバラ	54
カラフトゲンゲ	48
カラフトハナシノブ	101
カラフトミズキ	97
カラフトヤマナラシ	80
カラフトヤマボクチ	130
カワラボウフウ	147
ガンコウラン	105
カンボク	133
キジカクシ	29
ギシギシ属	95
キタホロムイイチゴ	58
キハダ	89
ギョウジャニンニク	27
グイマツ	11
クマコケモモ	103

クマユリ	24
クロウスゴ	108
クロユリ	22
ケヤマハンノキ	72
コケ植物	3
コケモモ	113
コバギボウシ	30
コミヤマカタバミ	78
コンブ属	1, 2
サンカヨウ	40
シウリザクラ	53
シダ	8
シャク	144
シラカンバ	73
スゲ属	34, 35
タカネナナカマド	62
ダケカンバ	74
タラノキ	140
チシマアザミ	123
チシマイチゴ	57
チシマザサ	38
チシマヒョウタンボク	137
チシマフウロ	83
ツタウルシ	84
ツバメオモト	21
ツリバナ属	77
ツルアジサイ	99
ツルウメモドキ	75
ツルコケモモ	109, 110
ツルシキミ	90, 91
ツルツゲ	119
テンキグサ	36
トガスグリ	46
トクサ	6
トクサ属	7
トドマツ	10
ドロヤナギ	79
ナナカマド	61
ナニワズ	92
ニレ属	64, 66, 67
ネズミサシ属	15
ネムロブシダマ	136
ノリウツギ	100
ハイイヌツゲ	120
ハイマツ	14
薄囊シダ類	8
ハッカ	118
ハマアカザ	96
ハマナス	55
ハマベンケイソウ	115
バラ属	56
ハリギリ	142
ハンゴンソウ	128
ヒオウギアヤメ	26
ヒカゲノカズラ属	4, 5
ヒメツルコケモモ	110
ヒロハノツリバナ	76
ベニバナヒョウタンボク	138
ベニバナヤマシャクヤク	44
ホザキシモツケ	63
ホザキナナカマド	60
ホテイアツモリソウ	25
マイヅルソウ	31
ミズバシウ	19

ミネズオウ	106
ミヤマイボタ	117
ミヤマオダマキ	41
ミヤマハンノキ	71
ミヤマタタビ	102
ミヤマラッキョウ	28
モンゴリナラ	69
ヤエムグラ属	114
ヤチダモ	116
ヤチヤナギ	70
ヤナギ属	82
ヤマブドウ	47
ヨシ	37
ヨブスマソウ	126
ヨモギ属	122
リシリビャクシン	16
レンプクソウ	131

## 英名 English name

alpine azalea	106
alpine honeysuckle	135
Amur cork tree	89
angular Solomon's seal	32
Arctic raspberry	57
Asian poison ivy	84
Asian skunk cabbage	19
Asian white birch	73
bearberry	104
bird cherry	52
bog-myrtle	70
bridewort	63
bristle-pointed iris	26
broadleaf currant	45
bunchberry	98
<i>Caltha fistulosa</i>	42
Canada mint	118
candle-shape maple	86, 87, 88
castor aralia	142
clematis	43
climbing hydrangea	99
<i>Clintonia udensis</i>	21
cloudberry	58
clubmoss	4, 5
common aspen	80
common hogweed	146
common juniper	16
common reed	37
corydalis	39
cow parsley	144
crimson glory vine	47
crowberry	105
currant	46
Dahurian larch	11
<i>Daphne jezoensis</i>	92
dock	95
edelweiss	124
elm	64, 66, 67
Erman's birch	74
ezo angelica	143
false spiraea	60
fan columbine	41
fern	8, 9

Filipendula camtschatica.....	49	Siberian onion .....	27	ель Глена .....	13
forked viburnum .....	134	skeleton flower .....	40	жимолость Глена .....	135
galium .....	114	small cranberry .....	109, 110	жимолость золотистая .....	136
giant butterbur .....	127	small-leaved plantain lily .....	30	жимолость сахалинская .....	138
giant knotweed .....	94	Small's blueberry.....	112	жимолость Шамиссо .....	137
gomchwi .....	125	snakeberry .....	31	ива .....	82
green alder .....	71	spikenard .....	139	ива удская.....	81
grey alder .....	72	spindle.....	76, 77	ильм .....	64, 66, 67
guelder-rose.....	133	sweetvetch .....	48	ильм лопастный.....	65, 66
hawberry .....	51	Synurus deltoides .....	130	ипритка восточная.....	84
honeysuckle.....	136, 137, 138	trillium.....	20	калина вильчатая .....	134
horsetail .....	7	tsuru holly .....	119	калина Саржента .....	133
Jacob's-ladder .....	101	Vaccinium microcarpum .....	110	калопанакс семилопастной.....	142
Japanese angelica tree.....	140	Weyrich's knotweed .....	93	калужница дудчатая .....	42
Japanese bird cherry .....	53	wild asparagus.....	29	касатик шетинистый .....	26
Japanese holly.....	120	wild ginger .....	18	кедровый стланик .....	14
Japanese rose .....	55	willow .....	81, 82	кислица обыкновенная .....	78
Japanese rowan .....	61	wood sorrel .....	78	китагавия терпентиновая .....	147
Japanese scallion.....	28	woodland peony .....	44	клён желтый .....	86, 87, 88
Japanese skimmia .....	90, 91	woolly geranium .....	83	клён Майра .....	85, 88
Japanese yew .....	17	wormwood .....	122	клинтония удская .....	21
junipers .....	15	yellow-paint maple .....	85, 88	клюква болотная .....	109, 110
Kamchatka bilberry.....	111	Yezo spruce .....	12	клюква мелкоплодная .....	110
Kamchatka lily .....	22			княженика .....	57
Kinnikinnick .....	103	露名 Russian name		княжик охотский .....	43
kolomikta .....	102	адокса мускусная .....	131	колосняк мягкий .....	36
Kuril bamboo .....	38	актинидия коломикта .....	102	кониограмма средняя .....	9
Labrador tea .....	107	аралия высокая .....	140	копеечник копеечниковый .....	48
lady's slipper .....	25	аралия сердцевидная .....	139	копытень гетеротроповидный .....	18
Laminaria .....	1, 2	арктоус альпийский .....	104	крапива пterosилистная .....	68
Lilium medeoloides .....	24	арника сахалинская .....	121	красника .....	111
lingonberry .....	113	багульник .....	107	крестовник конопелистный .....	128
Manchurian ash .....	116	бархат сахалинский .....	89	крестовник лжеарниковый .....	129
Manchurian elm .....	65, 66	белокопытник широкий .....	127	купена Максимовича .....	32
Mongolian oak .....	69	берёза плосколистная .....	73	купырь лесной .....	144
Mongolian poplar .....	79	берёза Эрмана.....	74	лабазник камчатский .....	49
moschatel .....	131	бересклет .....	77	ламинария .....	1, 2
moss .....	3	бересклет большекрылый .....	76	лебеда почти-сердцевидная .....	96
mountain tobacco .....	121	бирючина хоккайдская.....	117	лилия пенсильванская .....	23
nettle .....	68	бодяк гребенчатый .....	123	лилия слабая .....	24
Oriental bitter-sweet.....	75	бодяк камчатский .....	123	лиственница Каяндера .....	11
oval-leaf blueberry .....	108	борщевик шерстистый.....	146	луазелеурия лежачая.....	106
oyster leaf .....	115	боярышник зеленомякотный .....	51	лук блестящий .....	28
panicled hydrangea .....	100	брусника обыкновенная .....	113	лук охотский .....	27
Parasenecio robustus .....	126	бузина Микела .....	132	майник широколистный .....	31
Peucedanum terebinthaceum .....	147	бузульник Фишера .....	125	малина сахалинская .....	59
Pleurospermum uralense.....	148	венерин башмачок		мертензия приморская .....	115
plume thistle .....	123	крупноцветковый .....	25	можжевельник .....	15
privet .....	117	виноград Конье .....	47	можжевельник сибирский .....	16
red elderberry .....	132	вишня сахалинская .....	50	морозка .....	58
red raspberry .....	59	водосбор вееровидный .....	41	Мохообразные .....	3
rose .....	54, 56	волчник хоккайдский .....	92	мята канадская .....	118
rough horsetail .....	6	восковник пушистый .....	70	недоспелка копьевидная .....	126
rowan .....	62	временнокрыльщик		ольха волосистая .....	72
Sakhalin fir .....	10	камчатский .....	19	ольховник Максимовича .....	71
Sakhalin spruce .....	13	герань волосистоцветковая.....	83	осока .....	34, 35
saltbushes .....	96	гортензия метельчатая .....	100	осока вздутоносая .....	33
Sargent's cherry .....	50	гортензия черешчатая .....	99	падуб гопродчатый .....	120
sea lyme-grass.....	36	двулистник Грея .....	40	падуб морщинистый.....	119
seacoast angelica.....	145	дёрен шведский .....	98	Папоротниковые .....	8
sedge .....	33, 34, 35	древогубец крупнолистный .....	75	пион обратнойцевидный .....	44
Senecio cannabifolius .....	128	дуб курчавенький .....	69	пихта сахалинская .....	10
Senecio pseudoarnica .....	129	дудник Гмелина .....	145	подмаренник .....	114
Siberian dogwood .....	97	дудник медвежий .....	143	польнь .....	122
Siberian dwarf pine .....	14	ель аянская .....	12	пулаун .....	4, 5
Siberian ginseng .....	141			реброплодник уральский .....	148
Siberian lily.....	23			рейноутрия сахалинская .....	94



ニヴフ語名 Nivkh name

agusskuss.....	60
assini .....	29
atatf.....	123
atr .....	42
atz .....	42
betech .....	144
chágrs-tam .....	136
chanj .....	72
chársch .....	116
chartsch .....	65
ché .....	7
chemgul .....	40
dögr .....	44
edeni alss.....	58
eggadam .....	70
ein tux .....	115
erngi alss .....	175
hagi, hagi.....	27
hakak, hákak .....	106
haps .....	93
hapt .....	93
hark .....	22
he.....	6
hengul.....	40
héungi .....	71
hibbis .....	73
hibis .....	73
hilm.....	20
him .....	14
hisk .....	68
hissk .....	68
hiwis .....	73
ilm .....	20
issi .....	126
itkyt.....	52
itkyt.....	52
kaftschik .....	127
kakobi alss .....	176
kalngi .....	148
kam .....	31
kannant tigr.....	80
kap .....	52
karchk .....	22
kark .....	22
karpt alss .....	103
karschk .....	22
kasik .....	127
kassk .....	22
katschiling planch, katschilling-planch .....	21
kegla .....	70
kégla .....	70
kelacham, kelacham alss.....	59
kelcham .....	59
kengda .....	148
kengss .....	129
kengssi.....	129
kerachos .....	74
kero-öss .....	74
khongi .....	132
khysm .....	51
kmyi .....	69
kmyrsch alss .....	177
koi .....	11
kuengi .....	81
kuengi .....	82
kuglen wunt, kuglén wunt .....	101
kumbi .....	125
kuntr .....	82
kuntr .....	82
kup .....	52
kydemla nyks .....	56
kyss .....	49
kytsch .....	49
latitsch.....	96
löllu .....	127
lumpit kan .....	143
mauk-tam .....	135
medslanj .....	61
merssi .....	82
mesla .....	61
metsch .....	133
métschak nyks.....	62
mussingi, mussingi .....	36
mussjkr .....	79
mygr alss .....	113
natki alss .....	46
nebdongi .....	46
newodong .....	46
ngaring .....	10
ngaryng .....	10
njägr alss .....	178
njägr kytych .....	41
njarngi .....	10
njunjga.....	85
nork .....	23
nossk .....	23
nukr .....	146
nyid nyks.....	92
odr-rif .....	56
oéta.....	16
oéta.....	15
ogo alss .....	112
ogog alss .....	112
öllu .....	28
ôrplang, ör plang.....	130
pagla alss.....	113
pagla karpt alss .....	119
pasing nyks .....	97
patsch .....	34
pe-wan.....	133
pebang alss .....	141
pebex .....	179
persch .....	76
perss .....	76
pila latsch .....	55
piola alss .....	180
pisskr .....	145
pōlo .....	116
pyiss .....	146
pyss .....	146
pytschj.....	1, 2
ssumgi .....	108
ssumgi alss .....	108
taïss .....	52
tarmanj .....	17
tatsch .....	52
tawwi .....	116
tebach .....	87
tepkchai .....	86
terkochj .....	56
tif.....	38
tiufk .....	37
tiurk .....	39
tiuschk .....	39
tmyss .....	146
tol-achs, tolachs .....	127
tōs .....	14
tschadi alss .....	183
tschagmyss .....	102
tschamrss.....	45
tschemmetsch .....	133
tschepkchai, tschep-kchai .....	86
tschjuch tschombr .....	18
tschjuk .....	131
tschollach .....	181
tschorbi .....	43
tschumgi .....	108
tschung .....	137
tschwellach .....	182
tschyrch .....	39
tudam .....	83
tuéssk .....	12
tuïssk .....	12
tukkoss .....	184
tuntra-ten.....	78
tutuisk alss .....	104
tuyng .....	143
twirssk.....	19
tykr .....	107
tym alss .....	110
tyrch .....	39
utin .....	48
wach .....	3
walmi .....	26
warsspi .....	8
wassjpi.....	8
wet-puks, wet puks .....	32
wetchant .....	25
wolmi .....	35
ygyg alss .....	105
yio .....	128
ウイルタ語名 Uilta name	
chásikta .....	12
dapáhta .....	51
dshíwakta .....	74
gèun, géun .....	71
pé.....	73
sseduchó .....	113
ssissi .....	11
ssolsikta .....	72
túngde .....	82
túngdo .....	82
wángita .....	10
wókdo .....	14